

平成 25 年度

排出事業者と優良産廃処理業者の連携による循環産業形成支援業務

報告書

平成 26 年 3 月

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部



## 【 目次 】

I.	はじめに .....	1
1.	本事業の目的 .....	1
2.	実施機関 .....	1
II.	実施結果 .....	2
1.	シンポジウム/ワークショップ実施概要 .....	2
①	タイトル .....	2
②	開催日時・場所 .....	2
③	参加対象者 .....	2
④	プログラム .....	2
⑤	会場レイアウト .....	4
2.	ワークショップ企画・運営 .....	6
①	狙い .....	6
②	ワークショップタイトル .....	6
③	基本方針 .....	6
④	タイムスケジュール .....	6
⑤	ファシリテーター .....	7
⑥	グループ編成 .....	7
⑦	事前アンケート .....	7
⑧	プログラムデザイン .....	8
⑨	アウトプットフォーマット及び記載例 .....	13
3.	参加者招致 .....	16
①	集客目標 .....	16
②	集客方法・対象及びスケジュール .....	16
③	申込方法 .....	17
④	集客結果 .....	23
⑤	受付方針 .....	23
4.	パブリシティ・メディア対応 .....	24
①	日経エコロジーへの記事広告掲載 .....	24
②	環境省ホームページへの開催結果掲載 .....	24
③	メディア取材対応 .....	24
5.	アンケート .....	24
①	狙い .....	24
②	アンケート用紙 .....	25
③	集計結果 .....	26

III. 総括	35
1. 排出事業者及び処理業者間の連携の促進について	35
2. 処理業者の優良認定取得の機運醸成について	36
3. 運営面について	36

# I. はじめに

---

## 1. 本事業の目的

世界的な資源制約を踏まえ、廃棄物等を貴重な資源としてとらえ、積極的に循環利用する循環産業の育成が必要となっている。しかし、従来は、必ずしも質の高い循環利用が行われてきたとは言えない状況にある。

このため、産業廃棄物の排出事業者と優良産廃処理業者等の連携・協働を支援することで、より付加価値の高い循環利用を行う循環産業を育成することを目的として、排出事業者と産廃処理業者により構成されるフォーラムを開催し、これらの事業者間の連携・協働に向けたビジネス・マッチングを行うとともに、排出側と処理側が連携・協働して行われた循環ビジネスの先進事例について情報発信を行う。

具体的な事業効果として下記①②を想定する。

- ① 排出事業者・処理業者間連携の必要性の認識向上
- ② 処理業者の優良化の機運醸成

## 2. 実施機関

本業務は、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課の企画に基づき、アマタ株式会社が環境省からの請負業務として実施した。

## II. 実施結果

---

### 1. シンポジウム/ワークショップ実施概要

#### ① タイトル

「環境省主催 シンポジウム/ワークショップ 循環産業の新たな局面へ！連携と協働から考える次の一手」

#### ② 開催日時・場所

[第1回<東京会場>]

日時：平成26年2月5日（水）

場所：東京国際フォーラム 会議室 G409

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号

[第2回<大阪会場>]

日時：平成26年2月14日（金）

場所：グランフロント大阪 ナレッジキャピタル カンファレンスルーム C05

〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号

#### ③ 参加対象者

排出事業者及び優良産廃処理業者等（廃棄物処理法に規定されている優良産廃処理業者認定制度の認定を取得又は取得を検討中の業者）

#### ④ プログラム

[東京会場]

---

時間	進行
13:00～13:05	開会挨拶 環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課長 塚本 直也氏 産業廃棄物課課長補佐 外山 洋一氏 代行
13:05～13:40 (35分)	【第1部】基調講演 「目指すべき循環産業の高付加価値化」 鳥取環境大学特任教授 サステイナビリティ研究所 所長 田中 勝氏

---

13:40～14:20 (40分)	<b>【第2部】優良事例プレゼンテーション</b> <b>①株式会社 LIXIL</b> 「LIXIL の資源循環の高付加価値化と優良認定業者との連携について」 プロダクツカンパニー 安全・環境統括部 環境推進部 部長 横手 睦彦氏 <b>②環境開発工業株式会社</b> 「排出事業者と連携した『ワンストップサービス』について」 業務部 部長 渡辺 隆志氏
14:20～14:30	休憩
14:30～17:20 (170分)	<b>【第3部】ワークショップ</b> <プログラム> ・自己紹介・アイスブレイク ・グループワーク ・プレゼンテーション ・フィードバック・気付きの共有
17:20～17:25	閉会挨拶
17:25～18:00	名刺交換会 ※任意での参加

[大阪会場]

時間	進行
13:00～13:05	開会挨拶 環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課長 塚本 直也氏 産業廃棄物課課長補佐 外山 洋一氏 代行
13:05～13:40 (35分)	<b>【第1部】基調講演</b> 「目指すべき循環産業の高付加価値化」 鳥取環境大学特任教授 サステイナビリティ研究所 所長 田中 勝氏
13:40～14:25 (45分)	<b>【第2部】優良事例プレゼンテーション</b> <b>①帝人株式会社</b> 「持続可能社会の実現に向けた帝人の循環型繊維リサイクル『エコサークル®』」 高機能繊維・複合材料事業グループ

---

経営戦略・企画管理室 大野 未央良氏

②株式会社 LIXIL

「LIXIL の資源循環の高付加価値化と優良認定業者との連携について」

プロダクツカンパニー

安全・環境統括部 環境推進部 部長 横手 睦彦氏

質疑応答 (5分)

14:25～14:35	休憩
14:35～17:30 (175分)	<b>【第3部】 ワークショップ</b> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>&lt;プログラム&gt;</p><ul style="list-style-type: none"><li>・自己紹介・アイスブレイク (10分)</li><li>・グループワーク (100分)</li><li>・プレゼンテーション (各グループ3分)</li><li>・フィードバック・気付きの共有 (20分)</li></ul></div>
17:30～18:00	閉会挨拶・名刺交換会 ※任意での参加

---

⑤ 会場レイアウト

事例紹介から円滑にワークショップに移行するため、プログラム開始時よりアイランド型のテーブル配置とした。





## 2. ワークショップ企画・運営

### ① 狙い

排出事業者・処理業者双方が（可能な限り本音ベースで）、それぞれの課題や事情、展望・考えていることに関する理解を深め、共通のビジョン（⇒循環の高付加価値化）を実現するための連携・協働のあり方、進め方について気付きを得られるようにする。

### ② ワークショップタイトル

「Make the Loop!!」

### ③ 基本方針

- ・ 業種や立場ごとに様々な課題を抱えていることを理解してもらうことを 1st ステップと位置付けた。
- ・ 場合によっては、メーカー等排出側のみの連携で完結したり、排出側が処理事業に参入したりする等のケース・アイデアが提示されることも考えられるが、参加メンバーが前向きに“それぞれの立場から何ができるか”を考えられるよう誘導することとした。
- ・ 現状の制約・立場に縛られずに、あるべき姿やできることを自由に発想する場とした（何らかの決まった答えや合意を導き出す場ではない）。また自由な発想のために、適度な楽しさと緩さを感じられるよう場をデザインすることとした。

### ④ タイムスケジュール

時間	進行
14:35～14:40	グループワーク全体説明（5分）
14:40～14:50	自己紹介・アイスブレイク（10分）
14:50～15:20	【フェーズ1】 課題の共有（30分）
15:20～16:30	【フェーズ2】 テーマ決め・アイデアワーク（70分）
16:30～16:40	休憩（10分）
16:40～17:10	発表（30分）
17:10～17:20	フィードバック（10分）
17:20～17:30	気付きの共有（10分）

## ⑤ ファシリテーター

所属	氏名
公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 企画調査部 部長	改田 耕一 氏
公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 企画調査部 主幹	吉川 賢 氏
アマタ株式会社 環境戦略支援グループ	田中 健一 氏
アマタ株式会社 環境戦略支援グループ	田部井 進一 氏
アマタ株式会社 環境戦略支援グループ	末次 貴英 氏
アマタ株式会社 総合環境ソリューション営業グループ	武津 雄太 氏
アマタ株式会社 総合環境ソリューション営業グループ	鈴木 昌俊 氏
アマタ株式会社 総合環境ソリューション営業グループ	小峯 慎司 氏

## ⑥ グループ編成

7人×8グループを基本とし、全体の人数、排出事業者と処理業者の人数のバランスを考慮してグループを決定した。また必要に応じて当日グループ調整を行った。

その他、議論の内容が偏ることを避けるため、業界や排出・取扱品目ごと等に区分せず、できるだけ属性を混合することとした。

※詳細は「資料1. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧参照」

## ⑦ 事前アンケート

グルーピングやワークショップの効果的な進行のための基礎情報として、参加申込み時に以下の質問項目に回答してもらうようにした。

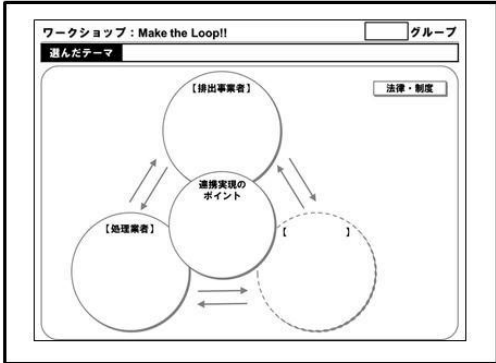
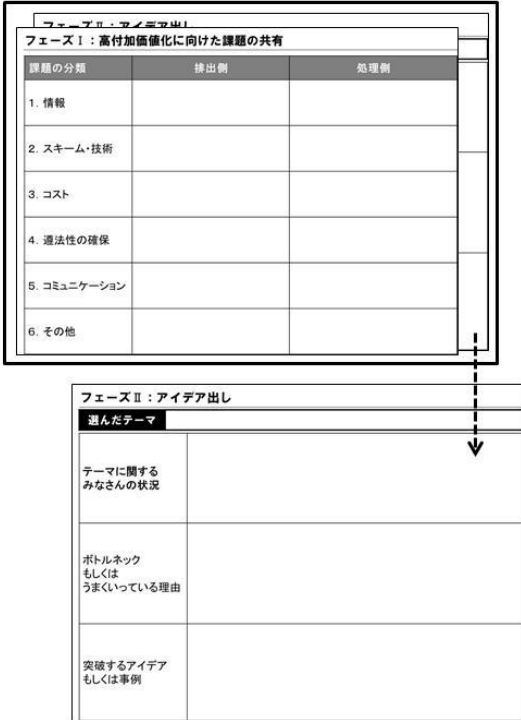
《属性》 業種、業務内容

《以下、資源の循環・有効利用に関して》

- A) これまでに自社で排出事業者／処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例
- B) 現在の課題意識や今後取組みたいテーマ
- C) 本イベントに期待すること

※詳細は「資料1. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧参照」

⑧ プログラムデザイン

	時間	狙い／目標	活動内容／問い	ファシリテーター の役割	場の設定
1	14:35～14:40 (5分)	狙いを共有する	<p>・ グループワーク説明(会場全体)</p> <p>【ワークショップスタート時のホワイトボード】 → 準備として下記のように予め模造紙をホワイトボードに貼付する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><b>【ホワイトボード表面】</b></p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p><b>【ホワイトボード裏面】</b></p>  </div> </div>		

			<p>【机の上に用意するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋、プロッキー(水性マーカー)、A4 用紙(自己紹介用) …各人数分</li> <li>・グループメンバー一覧</li> </ul> <p>【ファシリテーターの手持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプットフレーム(模造紙フォーマット③)記載例(A3 印刷 1 部)、グループ別参加者一覧、実施企画書</li> </ul> <p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターが適宜小休止を入れて、お茶や飴などを取ってもらうよう促す。</li> <li>・タイムマネジメントのため、メンバーに発言時間について予め言及するようにする。</li> </ul>						
2	14:40～14:50 (10 分)	相互理解(特に テーマに対する 思い) 話しやすい雰 囲気づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介・アイスブレイク <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ A4 用紙に各自書いてスピーチ。</li> <li>➢ 2 分フリップ記載、各 1 分スピーチ(→長引くことあり。記入しても らう際に予め、「一言で」と伝えておく方が良い)</li> </ul> </li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>会社名・氏名</td> <td>期待すること</td> </tr> <tr> <td>仕事内容</td> <td>気になっていること</td> </tr> </table>	会社名・氏名	期待すること	仕事内容	気になっていること	進行・タイムマネジメント ⇒うまく場が和むようまずファシ リテーターが例としてスピーチ する	<ここから各チーム で>
会社名・氏名	期待すること								
仕事内容	気になっていること								
【フェーズ I】 課題の共有 14:50～15:20 (30 分)									
3	14:50～15:00 (10 分)	課題を各自抽 出	<p>高付加価値化に向けた課題の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の抽出 ⇒「高付加価値化のための課題は何か？」</li> <li>➢ あらかじめ次の狙いと進め方を告知する： <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 排出側と処理側とで課題を共有するために課題の抽出と共有を 行う。その次に、まずはサプライチェーンの上流工程である排出 側の課題を切り口にディスカッションを進めていきたい。</li> </ul> </li> </ul>	・進行・タイムマネジメント ⇒WS に狙いの異なる2つのフ ェーズあることを伝え、最終アウ トプットイメージをメンバーに意 識付けることが重要	付箋、プロッキー				

			<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 各自持参してもらったアンケート内容と、ホワイトボードに貼った課題の分類表(模造紙フォーマット①)を参考にしながら付箋に書き出してもらおう。</li> </ul>	<b>【ホワイトボード】</b> 模造紙フォーマット①をオモテ面に。																													
4	15:00～15:20 (20分)	課題の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題の分類・共有(2分×7人+α)</li> <li>▶ 抽出したのから各自「これぞ」というものを3つ選んでもらい、順番に分類分けしてホワイトボードに貼ってもらおう。貼るときに簡単に内容の説明・共有をしてもらう。</li> <li>▶ 時間は予め一人2分程度で、と伝える。</li> </ul>	進行・タイムマネジメント ⇒できるだけメンバーがわいわい言いながら自分達で分類していけるよう場を誘導する。																													
【フェーズⅡ】 テーマ決め・アイデアワーク 15:20～16:30(70分)																																	
5	15:20～16:15 (55分)	課題の絞り込み・掘り下げとアイデア出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題の絞り込み(10分)</li> <li>▶ 排出側の課題の共通要素をまとめて一般的な課題に変換・記載してホワイトボードに記入する。この際、あまり無理やり一般化しようとしなくてもよい。</li> </ul> <p>例) 付着物の多い廃プラのリサイクル ⇒ 処理困難物の再資源化</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>課題の要素</th> <th>排出側</th> <th>処理側</th> <th>課題の共通要素</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6)</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 意見が多かった排出側の課題を1つ抽出し起点とする。意見がばらけた場合は挙手などで決める。</li> </ul>	課題の要素	排出側	処理側	課題の共通要素	1)				2)				3)				4)				5)				6)				進行・タイムマネジメント  →「課題の共通要素」はホワイトボードに記載する	
課題の要素	排出側	処理側	課題の共通要素																														
1)																																	
2)																																	
3)																																	
4)																																	
5)																																	
6)																																	

		<p><u>アイデアワーク</u>(45分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アイデア出しフレーム(模造紙フォーマット②)を使いアイデア出しをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「テーマに関する状況」「ボトルネックもしくはうまくいっている理由」のメインは排出側からの発言になるが、処理側からも何か意見などあればぜひお願いします、という程度にフォローする。</li> <li>➢ 「テーマに関する状況」「ボトルネックもしくはうまくいっている理由」までで15分程度、「突破するアイデア」で25-30分程度取れるのが理想。</li> <li>➢ このWSでは、行き詰まった状況に対し、新たな視点やヒントを得ることがポイント。そのため「突破するためのアイデア」では飛躍しても良いので自由にアイデア出しをしてもらう。ここでどれだけ盛り上げられるかが重要。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 《参考:盛り上げる言葉》 飛躍してもOK/制約を外してみたらどうなりますか? / 頭の体操と思って / アイデアの数だけ気付きにつながります / 日本代表団だと思って</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 課題分類表(模造紙フォーマット①)を外してテーブルに置き、2枚目に貼ったアイデア出しフレーム(模造紙フォーマット②)を使用する。</li> </ul> <p><b>【参考】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ここでも付箋を使って意見を出すようにするとスムーズに行くケースもある。</li> <li>• 時間と進捗によっては、早々に模造紙フォーマット②から③に移行、もしくは②を使用しなくても形にはなる。</li> </ul>
6	16:15~16:30 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グループ内アイデア・意見のとりまとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「突破するアイデア」のなかから“連携”に関するものをピックアップして、アウトプットフレーム(模造紙フォーマット③)にまとめていく。</li> <li>➢ アイデアに対し、排出側・処理側それぞれが働きかけできそうなこと、実現のポイントは何かを話し合っってフレームにまとめる。</li> </ul> </li> </ul>	<p>アウトプットフレーム(模造紙フォーマット③)への書込み</p>

【休憩】 16:30～16:40 (10分)					
7	16:40～17:10 (30分)	課題とアイデア の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表(3分以内×8チーム) <ul style="list-style-type: none"> <li>各グループのホワイトボード前でプレゼン、全体にシェアする。</li> <li>プレゼンターは自薦→他選→くじの順番で決める</li> </ul> </li> </ul>		<全体>
8	17:10～17:20 (10分)		<ul style="list-style-type: none"> <li>フィードバック <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒田中先生、環境省 外山課長補佐、ファシリテーター代表より</li> </ul> </li> </ul>	-	<全体>
9	17:20～17:30 (10分)		<ul style="list-style-type: none"> <li>気付きの共有(1分フィードバック) <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒時間管理のため「一言で」と伝える</li> </ul> </li> </ul>	進行・タイムマネジメント	各グループ内で



⑨ アウトプットフォーマット及び記載例

【模造紙フォーマット①：課題の整理】

**フェーズⅠ：高付加価値化に向けた課題の共有**

課題の分類	排出側	処理側
1. 情報		
2. スキーム・技術		
3. コスト		
4. 遵法性の確保		
5. コミュニケーション		
6. その他		

【模造紙フォーマット②：アイデア出しフォーマット】

**フェーズⅡ：アイデア出し**

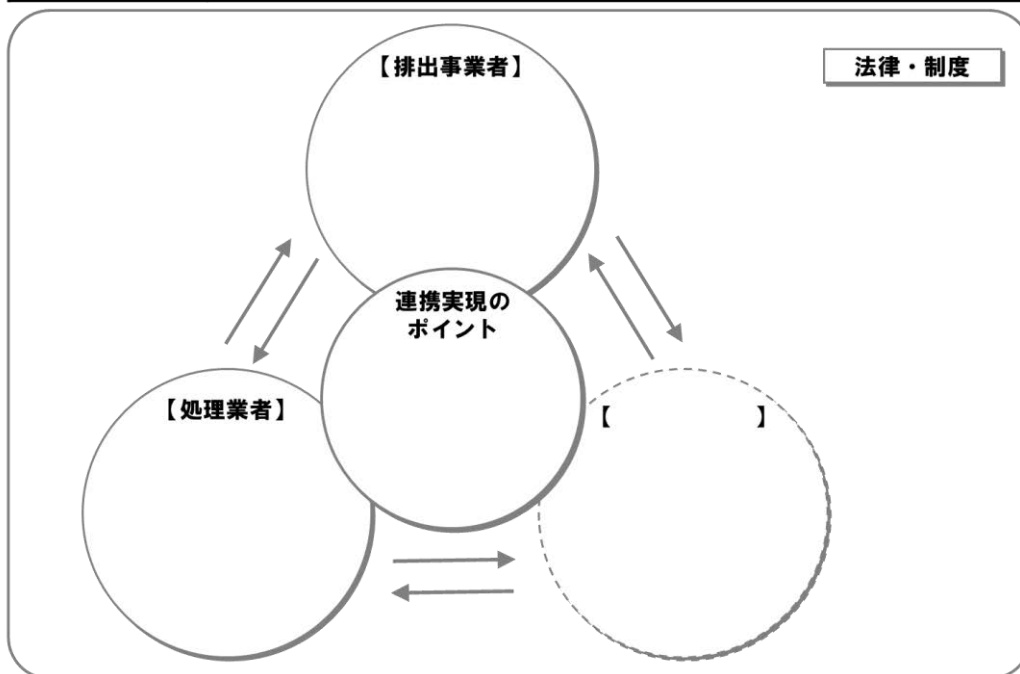
選んだテーマ	
テーマに関する みなさんの状況	
ボトルネック もしくは うまくいっている理由	
突破するアイデア もしくは事例	

【模造紙フォーマット③：アウトプットフォーマット】

ワークショップ：Make the Loop!!

グループ

選んだテーマ



【模造紙フォーマット③：記載例】

フェーズⅡ：アイデア出し ※記載例

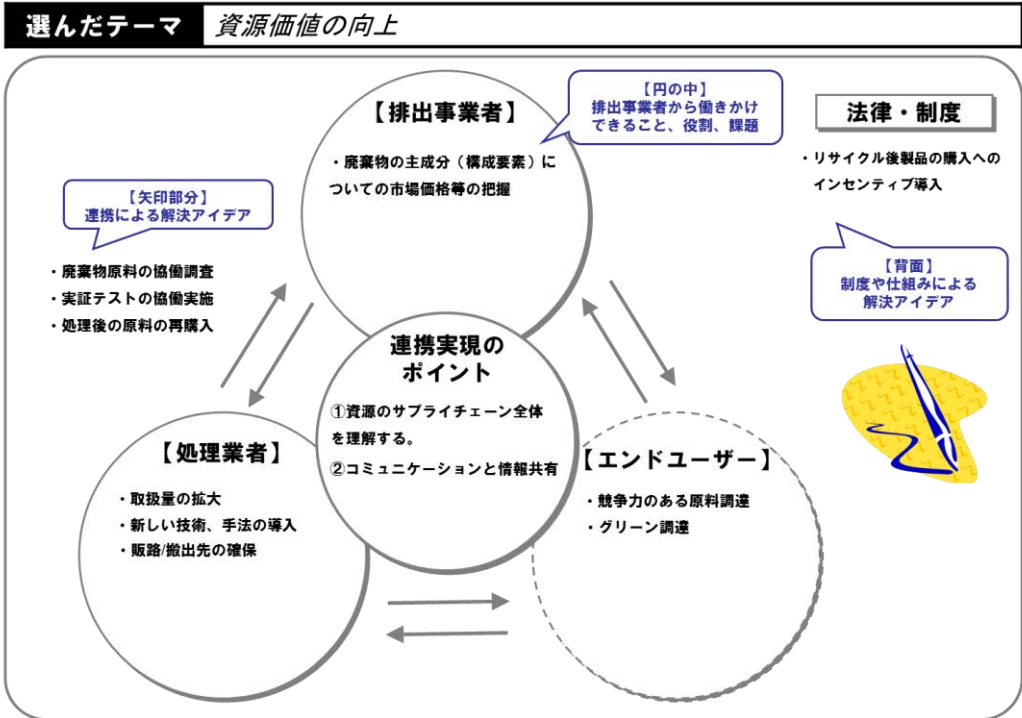
選んだテーマ <input type="text"/> 必要な技術情報への到達	
テーマに関するみなさんの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコプロや展示会で情報を収集するがうまく活用できていない</li> <li>・ 業界団体や処理業者に聞いたりするが実現に至っていない</li> <li>・ 社内の別工場に照会することで解決策を展開できている</li> </ul>
ボトルネックもしくはうまくいっている理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間・マンパワーがない</li> <li>・ 情報が使えるかどうか判断できない</li> <li>・ 信頼性が判断できない</li> <li>・ 実用性がない</li> <li>・ 情報量が足りない</li> </ul> <p style="text-align: right;">↓ここから積極的に処理側参加</p>
突破するアイデアもしくは事例	<p>処理業者等を複数集め意見交換の場を作る ⇒既に定期的な意見交換会をやっている</p> <p>現地確認を意見交換の機会にする</p> <p>処理技術にもJQAのような認証・ランクを設ける</p> <p style="text-align: right;">技術マッチングサイトがあるといい 技術情報バンク</p>

【模造紙フォーマット③：記載例】

⇒ A3 印刷してファシリテーターに手持ち用として配布。必要に応じて使用。

ワークショップ：Make the Loop!! ※記載例

グループ



### 3. 参加者招致

#### ① 集客目標

参加者枠は、各会場とも、排出事業者、処理業者（優良産廃処理業者もしくは認定取得を検討中の事業者）各 25 名だが、当日までのキャンセル発生を見込み、各 28 名（各テーブル最大 7 名とする）を集客目標とした。

#### ② 集客方法・対象及びスケジュール

実施日	集客対象	施策
H25. 12. 11	排出事業者	「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号配信 (配信先：排出事業者 10, 300 件)
H25. 12. 12	排出事業者	H25. 11. 28 環境省主催セミナー「廃棄物処理業界の未来 予想図から考える、優良産廃処理業者認定制度の活用方 法」参加者へのフォローメールにて案内 (配信先：85 件)
	処理業者	産廃情報ネット「さんばいくん」処理業者ユーザーへの メール「産廃短信」配信（公益財団法人産業廃棄物処理 事業振興財団より） (配信先：処理業者ユーザー4, 972 件)
	排出事業者	産廃情報ネット「さんばいくん」排出事業者向けメール 配信（公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団より） (配信先：情報管理サービスユーザー2, 186 件)
H25. 12. 19	排出事業者及び 処理業者	環境省記者発表 シンポジウム／ワークショップ「循環産業の新たな局面 へ！連携と協働から考える次の一手」の開催について(お 知 ら せ ) <a href="https://www.env.go.jp/press/press.php?serial=17517">https://www.env.go.jp/press/press.php?serial=17517</a>
H25. 12. 20	排出事業者	「おしえて！アミタさん」メールマガジン号外配信
H26. 1. 9	排出事業者	FAX 号外（関西エリア）配信
H26. 1. 22	排出事業者	「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号配信
H26. 1. 23	処理業者	公益社団法人大阪府産業廃棄物協会及び社団法人滋賀県 産業廃棄物協会に依頼、近畿ブロックの各協会から会員 宛てに告知（公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 より）



[申込みページトップ画面]

優良さんばいナビ [活かそう資源プロジェクトサイト](#) [さんばいくん](#)  
優良産廃処理業者ナビゲーションシステム [登録業者様専用サイト](#) [優良さんばいナビの使い方](#) [よくある質問](#) [お問い合わせ](#)

[トップ](#) [中間処理業者を探す](#) [収集運搬業者を探す](#) [最終処分業者を探す](#) [業者名・住所から探す](#)

## 環境省主催 シンポジウム/ワークショップ 循環産業の新たな局面へ！ 連携と協働から考える次の一手 【50社限定】

世界的な資源制約や市場変動リスクのなかで、個別の企業においても廃棄物を貴重な資源として捉え、これまで以上に質の高い循環利用を行うことの重要性が高まっています。このような質の高い循環利用（循環の高付加価値化）を目指すためのアプローチとして、排出事業者と処理業者等が互いのビジネスに対する理解を深め、パートナーとしてより踏み込んだ形で連携・協働を進めていくことは重要な要素であると言えます。本シンポジウム/ワークショップでは、目指すべき「循環の高付加価値化」とはどのようなものか、排出事業者と処理業者等とが課題解決のためにどのように連携・協働していけばよいのか、講演や事例紹介、ワークショップを通じて考えます。

### 対象

本イベントは、以下のいずれかに該当する排出事業者様もしくは処理業者様が対象となります。

- ▶ 環境業務に携わる本社・事業場の廃棄物管理担当者の方
- ▶ 優良産廃処理業者もしくは認定取得を検討中の処理業者の方（※）

本イベントの趣旨にご賛同いただき、簡単な事前アンケートにご協力いただけるとともに、ワークショップにも積極的にご参加いただける方をお待ちしております。

※優良産廃処理業者認定制度推進の観点から対象を設定させていただいています。  
ご担当者様にて認定取得をご検討されている段階でもお申込みいただけます。

### プログラム

#### ▶ 第1部 【基調講演】 目指すべき循環産業の高付加価値化

長年、循環産業の発展・育成に携わってこられた、鳥取環境大学サステナビリティ研究所の田中所長より、資源循環における現状と課題、循環産業のあり方や企業の取組みに向けたポイントについて講演いただきます。



【講師】

鳥取環境大学サステナビリティ研究所

所長 田中勝 氏

鳥取環境大学特任教授、岡山大学名誉教授、廃棄物・3R研究財団理事長。

産業廃棄物処理業経営塾 塾長、有害・医療廃棄物研究会会長などを務める傍ら、マスメディアを通じた循環産業の普及啓発にも積極的に取り組む。

#### ▶ 第2部 優良事例プレゼンテーション

##### 【東京開催】

- 株式会社LIXIL プロダクツカンパニー 安全・環境統括部 環境推進部 部長 横手睦彦 氏  
「LIXILの資源循環の高付加価値化と優良産廃業者との連携について」
- 環境開発工業株式会社 業務部 部長 渡辺隆志 氏  
「排出事業者と連携した『ワンストップサービス』について」

##### 【大阪開催】

- 帝人株式会社 高機能繊維・複合材料事業グループ 経営戦略・企画管理室 大野未央良 氏  
「持続可能社会の実現に向けた帝人の循環型繊維リサイクル『エコサークル@』」
- 株式会社LIXIL プロダクツカンパニー 安全・環境統括部 環境推進部 部長 横手睦彦 氏  
「LIXILの資源循環の高付加価値化と優良産廃業者との連携について」

### ▶ 第3部 ワークショップ「Make the Loop!!」

付加価値の高い循環利用に向けて、排出事業者・処理業者がグループのなかでそれぞれの課題を共有し、解決するために「連携・協働」という観点からどのようなアプローチが考えられるか、様々な視点からアイデアを膨らませ、今後の展開を模索します。決まった答えを導き出すのではなく、これからのあるべき姿やとるべきアクションについて、前向きなディスカッションを通じて気付きが得られる場を目指します。

#### <プログラム>

- ・自己紹介・アイスブレイク (20分)
- ・グループワーク (90分)
- ・プレゼンテーション (各グループ3分程度)
- ・フィードバック・気付きの共有 (10分)

※ワークは8つのグループに分かれて行い、進行はファシリテーターが担当します。

#### 概要

	東京	大阪
日時	2013年2月5日(水) 13:00~17:30 (開場 12:30~)	2013年2月14日(金) 13:00~17:30 (開場 12:30~)
場所	東京国際フォーラム G409 会議室 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号 <a href="http://www.t-i-forum.co.jp/general/access/">http://www.t-i-forum.co.jp/general/access/</a>	グランフロント大阪 ナレッジキャピタル Room C05 〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号 <a href="http://kc-i.jp/data/pdf/conference_map.pdf">http://kc-i.jp/data/pdf/conference_map.pdf</a>
参加費	無料	無料
定員(予定)	排出事業者枠: 25名 処理業者枠: 25名	排出事業者枠: 25名 処理業者枠: 25名

※お申込は1社につき1名様とさせていただきます。

※17:30~18:00まで名刺交換会を予定しています(任意参加)。

#### 注意事項

- ・業種の偏り等、ワークショップのグループ編成における都合により、開催日の2週間前を目処にお断りのご連絡をさせていただくケースがございます。
- ・深夜24:00~6:00の時間帯はお申込ができません。
- ・プログラム・講師は変更となる可能性がございます。
- ・天候によって、開催を中止、または延期させていただく場合がございます。
- ・講義の録音、撮影はご遠慮ください。
- ・ワークショップの一部を除き、メディアの取材・撮影が入る場合がございます。



#### お問い合わせ

「循環産業の新たな局面へ！連携と協働から考える次の一手」セミナー事務局  
〒102-0073 東京都千代田区九段北三丁目2番4号 アミタ株式会社内  
TEL: 03-5215-8267  
メールアドレス: [ecobrain@amita-net.co.jp](mailto:ecobrain@amita-net.co.jp)

[申込みフォーム]

環境省主催 シンポジウム/ワークショップ

## 循環産業の新たな局面へ！ 連携と協働から考える次の一手 【50社限定】

### 申込みフォーム

ワークショップのグループ編成により業種等の偏りが出た場合は、お申込の時期に関わらず、当日の2週間前を目処にお断りのご連絡をするケースがございます。

※は入力必須項目です。

参加希望セミナー※		<input type="radio"/> 東京 [2月5日(水)開催] <input type="radio"/> 大阪 [2月14日(金)開催]
会社名・団体名※		<input type="text"/>
ご担当者様	事業所名	<input type="text"/>
	所属部署※	<input type="text"/>
	氏名※	<input type="text"/>
	電話番号※	<input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/>
	FAX番号	<input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/>
	郵便番号※	<input type="text"/> - <input type="text"/>
	住所※	<input type="text"/>
	E-mail※	<input type="text"/>
業種※	<input type="text"/> <small>記入例：食品製造業、石油製品・石炭製品製造業、産業廃棄物処理業etc</small>	
業務内容※	<input type="text"/>	



<p>どちらの立場として参加されますか？※</p>	<p><input type="radio"/> 排出事業者 <input type="radio"/> 処理業者</p>
<p>「資源の循環・有効利用に関して」 これまでに自社で排出事業者/処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください※</p>	<div style="border: 1px solid #ccc; height: 80px;"></div>
<p>「資源の循環・有効利用に関して」 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください※</p>	<div style="border: 1px solid #ccc; height: 80px;"></div>
<p>本イベントに期待することは何ですか？※</p>	<div style="border: 1px solid #ccc; height: 80px;"></div>

▶ プライバシーポリシー

「循環産業の新たな局面へ！連携と協働から考える次の一手」開催におけるプライバシーポリシー  
「循環産業の新たな局面へ！連携と協働から考える次の一手」（以下「本セミナー」という。）事務局（以下「事務局」という。）は、法令を遵守して参加申込者の個人情報を次のとおり取り扱います。本プライバシーポリシーは本セミナー申込者の個人情報の利用目的、管理、運用について規定するものです。

**個人情報の取り扱いについて**  
個人情報の取り扱いは、本セミナー事務局が所属する会社の個人情報保護方針にしたがい、適切に管理いたします。

プライバシーポリシーに同意する



[申込み内容確認画面] ※サンプル画面

環境省主催 シンポジウム/ワークショップ  
**循環産業の新たな局面へ!**  
**連携と協働から考える次の一手**  
**[50社限定]**

申込フォーム		
参加希望セミナー※	東京 [2月5日(水)開催]	
会社名・団体名※	株式会社〇〇	
ご担当者様	事業所名	〇〇営業所
	所属部署※	営業部
	氏名※	山田太郎
	電話番号※	01-2345-6789
	FAX番号	01-2345-6789
	郵便番号※	012-3456
	住所※	東京都〇〇〇〇〇〇
	E-mail※	abcde@fg.com
業種※	食品製造業	
業務内容※	サンプルテキスト	
どちらの立場として参加されますか? ※	排出事業者	
「資源の循環・有効利用に関して」 これまで自社で排出事業者/処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください※	サンプルテキスト	
「資源の循環・有効利用に関して」 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください※	サンプルテキスト	
本イベントに期待することは何ですか? ※	サンプルテキスト	



[サンクスページ]

優良さんばいナビ  
優良産廃処理業者ナビゲーションシステム

活かそう資源プロジェクトサイト | さんばいくん

登録業者様専用サイト | 優良さんばいナビの使い方 | よくある質問 | お問い合わせ

トップ | 中間処理業者を探す | 収集運搬業者を探す | 最終処分業者を探す | 業者名・住所から探す

### 環境省主催 シンポジウム/ワークショップ 循環産業の新たな局面へ! 連携と協働から考える次の一手 【50社限定】

#### 申込フォーム

メールを送信しました。  
ご利用ありがとうございました。

ワークショップのグループ編成により業種等の偏りが出た場合は、お申込の時期に関わらず、当日の2週間前を目処にお断りのご連絡をさせていただきます。ご了承ください。

[>>概要ページへ戻る](#)

▶ 優良さんばいナビについて | ▶ 産廃業者の方の新規登録について | ▶ 利用者の皆様へ

Copyright © Ministry of the Environment, All rights Reserved.

#### ④ 集客結果

		排出事業者 (定員 25 名)	処理業者 (定員 25 名)
東京会場	申込み	35 社(35 名) (定員超過のためうち 6 社お断り)	30 社(31 名) (定員超過のためうち 4 社お断り)
	当日参加	22 社(22 名)	21 社(22 名) + 事例発表企業 2 社(3 名)が ワークショップ参加
大阪会場	申込み	21 社(21 名)	24 社(25 名)
	当日参加	20 社(20 名)	21 社(22 名) + 事例発表企業 1 社(1 名)が ワークショップ参加

#### ⑤ 受付方針

- ・ 基本的には先着順での受付とし、原則として排出事業者、処理会社それぞれ 28 名を超えた時点でキャンセル待ちとする方針とした。但し 28 名を超えた場合であって、アンケートの記載状況等が著しく不十分と判断される場合、もしくはグループ編成に不都合がある場合はお断り・入替えの対応を行うこととした。

- ・ また、優良産廃処理業者を特に優先することはしないものとした。
- ・ お断りする場合、イベント当日の2週間前【東京 1/22（水）・大阪 1/31（金）】までに申込者への連絡をするものとした。また、参加者へは当日の1週間前【東京 1/29（水）・大阪 2/7（金）】までに参加証メールの配信を行った。

## 4. パブリシティ・メディア対応

### ① 日経エコロジーへの記事広告掲載

東京にて開催したシンポジウム／ワークショップの内容について「日経エコロジー」4月号（日経 BP 社／H26. 3. 8 発売）への記事広告（4 ページ分）を掲載し、環境・資源循環の領域に関わりや関心を持つ層に対し広く普及啓蒙を図った。

※内容については「資料 6. 日経エコロジー掲載記事」を参照

### ② 環境省ホームページへの開催結果掲載

環境省ホームページにて公表する本シンポジウム／ワークショップ開催結果の報道発表の資料作成を行った。

※内容については「資料 7. 環境省ホームページ報道発表資料」を参照

### ③ メディア取材対応

本シンポジウム／ワークショップでは取材受付を行い、東京会場にて申込みのあった株式会社環境産業新聞社の取材対応を行った。なお取材内容については「ザ・ウエイスト・マネジメント 2 月 15 日号」（環境産業新聞社）の記事として掲載された。

## 5. アンケート

### ① 狙い

本事業の狙いである①排出事業者・処理業者間連携の必要性の認識向上、②処理業者の優良化の機運醸成について効果を確認するためのアンケートを設計し、各会場でのシンポジウム／ワークショップ終了後に参加者への回答を求めた。

## アンケート用紙

### アンケート

この度は環境省主催シンポジウム／ワークショップにご参加いただきありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、下記アンケートにご協力ください。

貴社名		お名前	
-----	--	-----	--

※ご記入内容を貴社名・個人名が特定されない形でウェブサイト等に掲載させていただく場合がございます。

(1) 本日のシンポジウム／ワークショップは参考になりましたか？

5段階で評価して○をつけてください(1.非常に満足 2.満足 3.普通 4.不満 5.非常に不満)。

	1	2	3	4	5
全体					
第1部【基調講演】目指すべき循環産業の高付加価値化					
第2部 優良事例プレゼンテーション					
第3部 ワークショップ「Make the Loop!!」					

(2) <循環の高付加価値化について>連携・協働による取組み推進のアイデアや気づきが得られましたか？もしくは取組みのきっかけとして役に立ちましたか？

1.とてもそう思う 2.そう思う 3.どちらとも言えない 4.そう思わない 5.全くそう思わない

【1.2を選択された方へ】具体的にどのようなアイデア・気づきがありましたか？

--

【4.5を選択された方へ】なぜそのように思われましたか？期待と異なったのはどのようなところですか？

--

(3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思いますか？

1.はい 2.いいえ

【1を選択された方へ】具体的なお要望やアイデア等があればご記入ください

--

(4) 【優良産廃処理業者認定未取得の処理業者の方へ】

本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まりましたか？

1.とてもそう思う 2.そう思う 3.どちらとも言えない 4.そう思わない 5.全くそう思わない

(5) その他、本イベントを通してのご意見・ご感想等ございましたらご記入ください。

--

以上です。ご協力いただきありがとうございました。

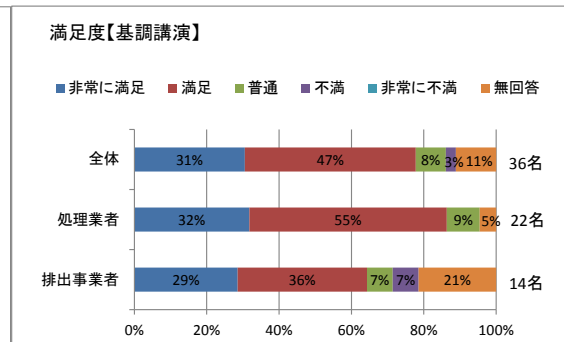
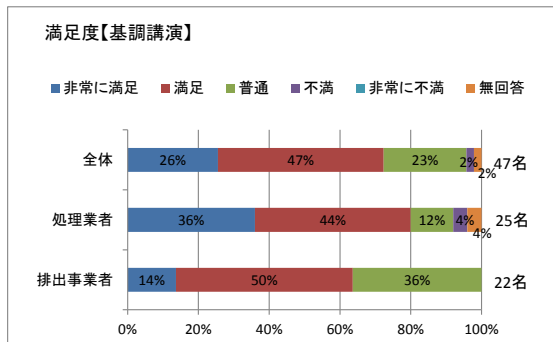
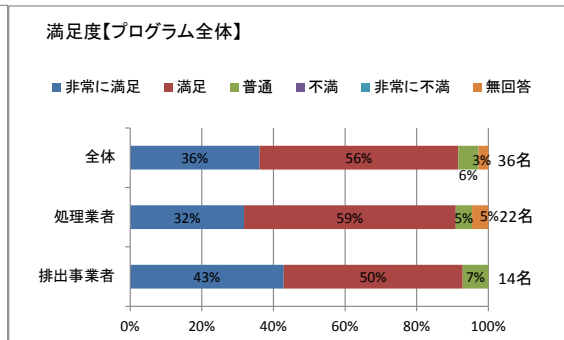
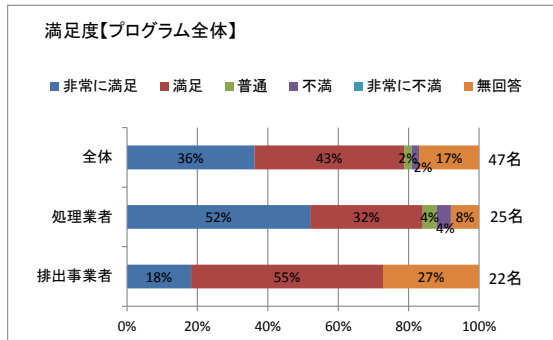
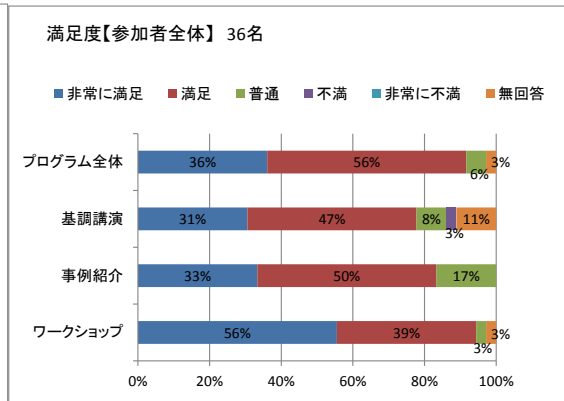
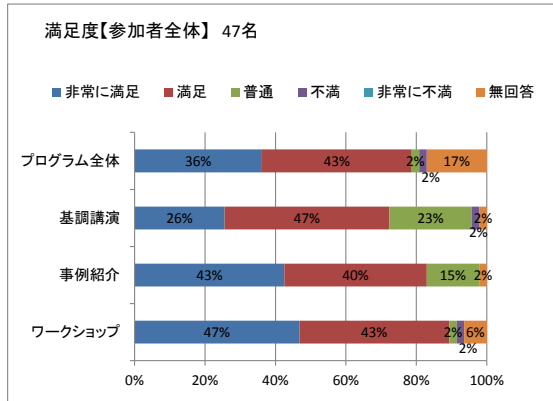
## ② 集計結果

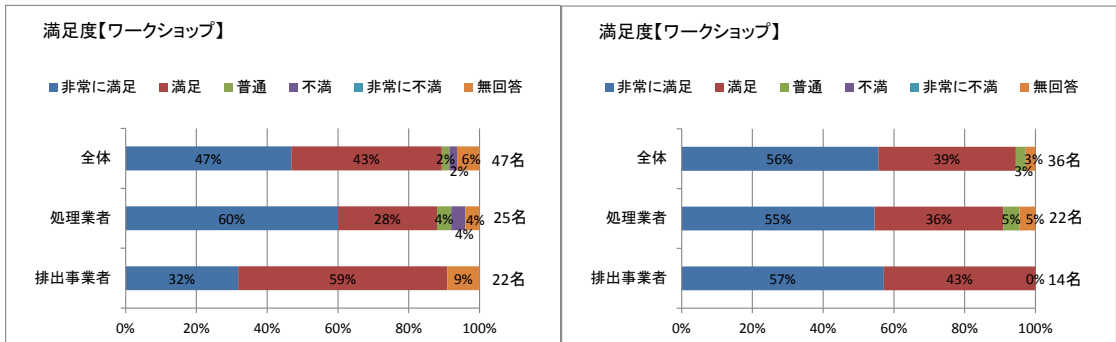
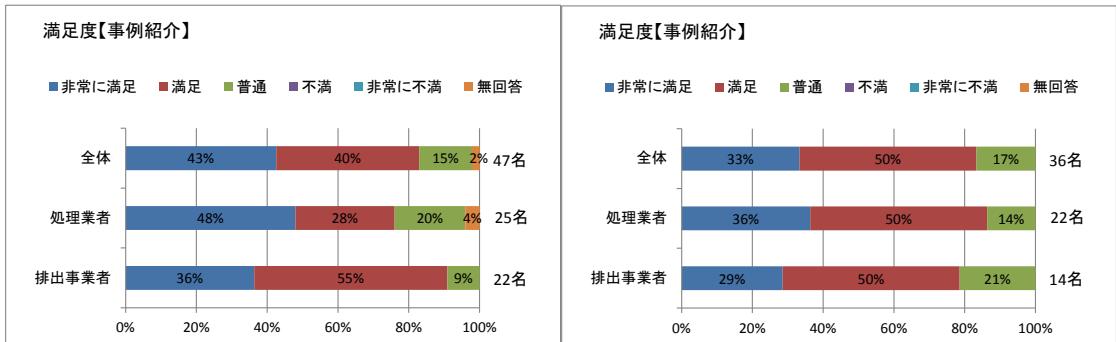
(1) 本日のシンポジウム／ワークショップは参考になりましたか？

5段階で評価して○をつけてください(1.非常に満足 2.満足 3.普通 4.不満 5.非常に不満)。

[東京会場]

[大阪会場]

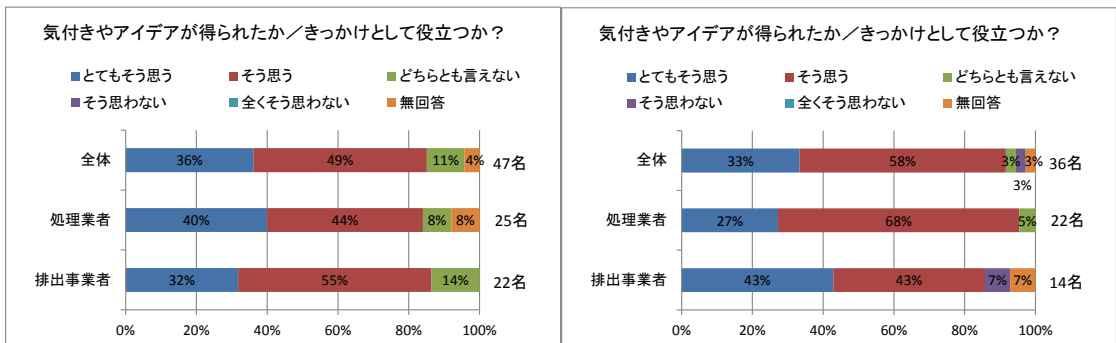




(2) <循環の高付加価値化について>連携・協働による取組み推進のアイデアや気づきが得られましたか？もしくは取組みのきっかけとして役に立ちましたか？

[東京会場]

[大阪会場]



【1.2 を選択された方へ】具体的にどのようなアイデア・気づきがありましたか？

[東京会場]

【排出事業者】

- ・ 排出側の分別やコスト意識を変えていく必要を感じた。(処置業者まかせにしない)
- ・ エコセンターのような自前である程度廃棄物を処理してしまう方法の可能性。廃棄物を減らすために圧縮等の技術を業者に相談するとか。ワンストップサービスも事務処理を軽減して良いかと思う。

- ・ 業者選定以外で処理業者さんと意見交換が行え、本音でそれぞれの視点で話が出来たと思います。田中先生の講話の「本当のリサイクルとは」というのが本当そうだと思います（コストのかかるリサイクルは違う（ウソの）リサイクルだ）。遵法（社会）、リサイクル（環境）、コスト（経済）の持続可能の元、進めていく必要があると思います。
- ・ 処理業者としての情報発信。法を分かりやすく整備。
- ・ 事業として回収・分別・リサイクルを実施していた当社の場合は中間原料であるため実際は難しいが、良いと思った。ワンストップサービスは、デメリットも多いように思われた。同業他社での本当の意味での協力は作られるのかどうか。
- ・ 処理業者によるセミナー開催を実施していることを知った。処理業者側の視点からの問題点等を知ることが出来た。
- ・ リサイクルはコストダウンにつながる。本物のリサイクルを目指さなければならない。
- ・ 取引の透明化（情報開示&共有、法規制によりルールを表舞台に）。日本は法規制がないと動かない・動けないという風土。
- ・ 情報の共有化、データベース化（処分業者）。
- ・ 廃棄物でなく、有価買取、優良業者のデータベース化と公開。拡大生産者責任。リサイクル最大化と廃棄物不適正処理の重要性の経営トップへの啓発。
- ・ 優良認定制度の推進。有価売却・買取情報。
- ・ 処理業者とのコミュニケーションの必要性。
- ・ リサイクルとは何か？という課題について考えを新たに持つことができました。
- ・ 排出事業者と処理業者とのビジネスを離れてお互いを理解する場を定期的に設定し、コミュニケーションを図ること。
- ・ 排出事業者（他社）、処分業者さん相互の意見から、コスト意識・リサイクル取組の姿が勉強になった。
- ・ 優良認定業者の認定。ワンストップサービスの考え方。
- ・ 他業界の方の取組や考え方を聞いたのがとても良かった。
- ・ 排出事業者と処分業・収運業の方の貴重な意見を聞くことが出来ました。お互いのことをよく知ることが問題解決の糸口になると感じました。
- ・ コミュニケーションの重要性。

#### 【処理業者】

- ・ 排出事業者様の思っていること。
- ・ 自らの行動や情報発信が十分なのか、感じ、考えることが出来た。
- ・ お互いの情報共有を行うことで、より良いリサイクルの方向性が見えるのではないかと思います。
- ・ 私は業者ですので、排出者の方々の本音をお聞き出来てとても良かったと思います。
- ・ コスト（費用・分別・手間）を押し付けあうのではなく、無駄なコストを削減する。
- ・ リサイクルに対する問題意識で共通点があった。



- ・ ざっくばらんに話が出来た。
- ・ ワンストップサービスの価値を再度確認できた。
- ・ 優良化事業への取組。全国カバーできるような規模の拡大。情報提供の重要性。
- ・ 廃棄物処理にとどまらず、「リサイクル」に関する正しい情報を排出事業者様が求めていることが理解できました。排出事業者様の排出事務やコストの軽減に繋がる活動を目指します。
- ・ 排出事業者の意向等が具体的に分かった。
- ・ 排出事業者側の処理業者への見目を商売抜きで感じられた。
- ・ 排出事業者と処理業者が直接情報交換できるネットワークの場が必要。Web サイト等。
- ・ 田中先生の最後のお言葉の「リサイクルに囚われすぎでは」の一言は、新しい気づきを頂きました。
- ・ 社員教育や情報交換の課題が伺えたので良かったです。参考になりました。
- ・ コミュニケーションが大事。
- ・ 排出者側の本音が伺えたこと。「もっとお客様の声をきくこと」をやろうと思いました。
- ・ 排出先・処理先ともに高付加価値を求めていく姿勢に感銘。
- ・ 法律やコストの壁を感じているが、連携・協力する機会を設けなければならぬと気づきました。
- ・ 排出事業者側の本音が聞けたこと。

[大阪会場]

【排出事業者】

- ・ コミュニケーションの大切さ。
- ・ ワークショップで出た、少量品の処理方法について。
- ・ 排出業者が処理業者さんへの細かい情報を報告する様にします。
- ・ 廃棄物の性状を明確にできればコストダウンに繋がるため。
- ・ みなさんの熱意と前向きな姿勢に、情報交換をもっと密にすることで改善できる余地はいくらでもあると感じた。
- ・ やはりコミュニケーションが必要だと感じました。
- ・ 業者の選定は専門業者にお願いすれば良いことに気付いた。
- ・ 双方の立場で活発に議論出来て良かったです。
- ・ 処理業者の立場も分かり、当社の現状と照らし合わせられた。処理業者の方の話を聞く機会をまた持てたらと思います。
- ・ 排出者側も情報開示が進めば処理（有価）の可否が可能。
- ・ 優良産廃ネットなどを活用し、処理業者の検索が出来ることが分かりました。
- ・ 産廃ナビの活用。処理不明の試薬の窓口として、保健所に問い合わせるのがいいということを知って良かった。

- ・ 情報交換という点で有意義な時間でした。排出側としても有用な情報の探し方や、同様の課題を抱えていらっしゃる企業も多いと改めて知りました。このような試みが、委託側受託側の境界を越えて形成されることを切望します。

**【処理業者】**

- ・ 連携の重要性を感じました。
- ・ 排出業者、処理業者、立場によって価値感が変わる。
- ・ 排出者、処理業者の認識はかなり共有できていると感じました。
- ・ 排出元、処理業者間の信頼関係を築く為にも処理業者の情報発信力が重要である。
- ・ 工場視察の有料化。
- ・ 業者からの情報発信の重要性。
- ・ 財務や排出過程など見える化し、データ化し、共有していくことが土台になる。
- ・ 情報の共有の必要性。
- ・ 処理業者の情報発信が不足している。今回の様なセミナーを自社で開催してみたい。
- ・ 排出事業者へ中長期的な計画を共有しておくこと。コミュニケーションの強化にもつながる。
- ・ 排出者サイドの本音や考えが聞けて良かったと思います。
- ・ コスト意識が高いので高品質なりサイクルばかり追求しない選択もありえると思った。
- ・ 情報・コミュニケーションの重要性。
- ・ 排出事業者責任の新たな認識と協業について。
- ・ 情報を得ていくためには営業等を通じて、またネットを通じてしか得られないと思うが、その力をアマタ様に求めていきます。
- ・ 排出業者さんと話が出来て良かった。
- ・ 情報共有・交換の必要性（自社でも点検したい）。
- ・ 技術開発は情報共有等種々必要なことが多々あるが改めて排出者との信頼関係構築が重要と再確認しました。
- ・ 処理業者の情報を、思った以上に排出側が求めているということ。優良事例の内容は、色々と参考になりそうだった。

**【4.5 を選択された方へ】**なぜそのように思われましたか？期待と異なったのはどのようなところですか？

[東京会場]

**【排出事業者】**

- ・ Bグループは排出事業者の業界に偏りがあったので、他の業界の方と議論したかったです。

**【処理業者】**

- ・ 具体的にはこれから。

[大阪会場]

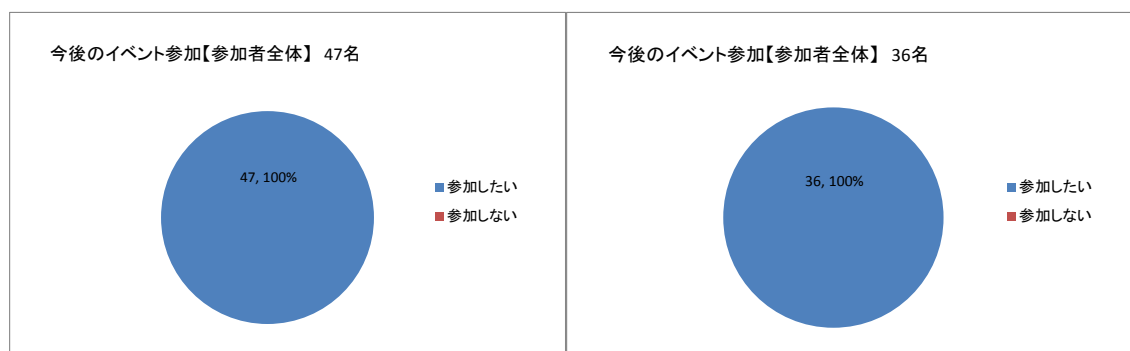
【排出事業者】

- ・ 内容が既知情報・一般論過ぎる。もっと「次世代の循環型社会はこうだ！」のような話が良かった。

(3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思いますか？

[東京会場]

[大阪会場]



【1を選択された方へ】具体的なお要望やアイデア等があればご記入ください

[東京会場]

【排出事業者】

- ・ 排出者と処理業者の意見交換はとても有意義であった。自分が広い視野を持つためにもまた参加してみたい。
- ・ 排出業者と処理業者が、話ができ、前向きな学者がいて有りがたく思った。ワークショップの記録のようなものが欲しい。
- ・ 排出しているものと近いものを処理されている方と話し合うのが良い。分野が違くと深堀が難しい。
- ・ 排出事業者とリサイクル業者のマッチメイキングの場の提供：今回の企画のようなもの。排出事業者は廃棄物処理業者をある程度知っている（売り込みセールス有）が、リサイクル業者はあまり知らない。
- ・ 環境省の方もワークショップに入ると良いかも。
- ・ 従来にはない形式で新鮮だったので、今回のパターンで2~3回は継続すべきと思います。
- ・ 有価物処分に関する情報交換。
- ・ アミタさん、環境省さんのつながりの深さに感心しました。
- ・ 他業種の排出事業者との意見交換の場があって良かった。
- ・ 具体的に両者の立場を踏まえた話し合いが出来たことが新しいアイデア・共感を生むことが出来るものだと思います。
- ・ もう少し時間があると良いと思います。

#### 【処理業者】

- ・ ワークショップの時間はもう少しは欲しかった。
- ・ ディスカッション→ビジネスモデル構築
- ・ 講演を短く。ワークショップ後にノミネーションをしたらどうか。
- ・ 排出者と処理業者の共同ワークショップはとても良いと思いました。この時間をもっと長くしても良いと思います。
- ・ いろいろなテーマで、とにかく話し合うことが有効と思う。
- ・ ワークショップでもグループディスカッションをテーマを決め時間を長くして実施してみたい。
- ・ リサイクルの実現に向けた情報交換。
- ・ なかなか優良業者がお客様に選んでいただけない現状でより良い循環産業の連携を図るのであれば、お互い本音で話す場が必要だと思います。
- ・ 具体的な部分の話、分科会でも良いのでしっかりと協議したい。今日は時間が足りなかった。
- ・ 専門分野別で深掘り出来ると良い。排出者・処理業者の扱っている廃棄物が一致するグループにすると良い。

#### [大阪会場]

##### 【排出事業者】

- ・ 処理業者の技術報告・事例を発表してほしい。(低コスト方法、リサイクル方法、再資源化等)
- ・ 環境省法令ガイド
- ・ 各処理業者の得意なものの発表の場があっても良いのでは？
- ・ 年2回くらい開催してください。
- ・ 次世代の廃棄物処理の方向性。
- ・ 名古屋開催希望します。
- ・ 関係が深い処理業者様と同じグループでディスカッションがしたい。
- ・ 排出業者として、処理業者の方とは、今のお付き合いのあるところだけで、話す機会がなかった。交流、情報交換の場は必要だと思いました。
- ・ 自社製品は消費者で購入、使用された後は家庭からの一般廃棄物として排出されます。ここにこれらを回収し、リサイクルが可能になるような仕組みを考えたいと思っています。

##### 【処理業者】

- ・ 行政と話す場が欲しい。
- ・ 行政（許認可権限のある）も参加されると良いと思う。
- ・ 廃棄物のリサイクルを具体的にどう進めるか？
- ・ 中部（名古屋）でお願いします。

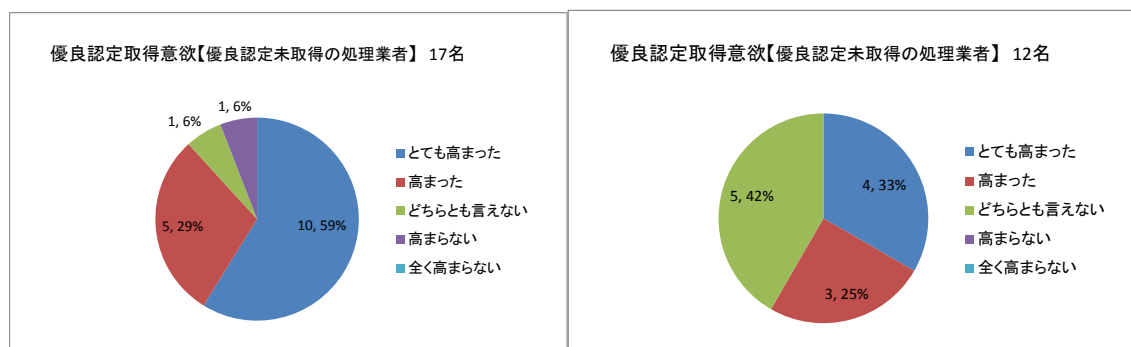
- ・ もっと回数・場所を多くしてください。
- ・ さらに具体的な展開を期待しています。
- ・ いろんな会社の方とお話出来る。
- ・ 海外事業。

(4) 【優良産廃処理業者認定未取得の処理業者の方へ】

本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まりましたか？

[東京会場]

[大阪会場]



(5) その他、本イベントを通してのご意見・ご感想等ございましたらご記入ください。

[東京会場]

【排出事業者】

- ・ 行政の方もオブザーバーとして入られており、排出者・処理者の抱えている意見・問題点を聞いていただける場で大変良かったと思います。このような場は開いていただきたいです。担当する者や、実態を知る異なる業種間で意見交換が出来、大変勉強になったし、同じような悩みを抱えている方がいらっしゃるのを聞いて不安が和らぎました。
- ・ 配布資料がカラーでとても見やすかった。LIXIL の取組は大変すばらしい (R&D へのフィードバックがあり、PDCA サイクルが生きている)。但し、事業部としては赤字なのが残念 (事業継続性がない)。こうした取り組みを支援する法制度のバックアップが必要と感じる。
- ・ 今後も行ってください。
- ・ ヒット！でした。環境省、アミタの企画力に感謝いたします。
- ・ 行政の徹底と法整備。
- ・ 多くの業者 (排出・処理) 様から直接話をする事ができて、勉強ができましたこと感謝しています。

【処理業者】

- ・ 大変良い経験となりました。ありがとうございました。
- ・ ありがとうございました。

- ・ ワークショップの内容はどうかあれ、排出業者と処理業者のコミュニケーションは必要である。今後も継続的な開催を願う。
- ・ 大変貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 良い業者(処理側)を育てるのは、やはり良い排出者がいなくてはいけないと思いますが、双方ともお互いがお互いを育てる信頼・連携関係の構築が必要だと痛感いたしました！
- ・ 大変有意義でした。また参加させてください。

[大阪会場]

**【排出事業者】**

- ・ とても良かったです。ありがとうございました。

**【処理業者】**

- ・ 優良認定は申請中。
- ・ 各地区でイベントを行うと良いと思います。
- ・ 優良事業者のメリットがもう少し大きい方がいいと思います。
- ・ 大変有意義な時間となりました。ありがとうございます。
- ・ ありがとうございました。
- ・ お疲れ様でした。良いイベントでした。
- ・ 排出事業者、処理業者、行政、コンサル側の視点で話が聞けて良かった。
- ・ 今後ともよろしくお願いします。

### III. 総括

#### 1. 排出事業者及び処理業者間の連携の促進について

- ・ プログラム全体の満足度は概ね高く（「非常に満足」及び「満足」の割合：東京 79%、大阪 92%）、全てのアンケート回答者がこのような企画があれば次回も参加したいとの回答であった。また中部地区等、他地域でも開催して欲しいとの回答も複数あり、今後の展開に対する参加者からの期待は非常に大きい。
- ・ プログラムに関しては、もっと個別の課題や廃棄物の種類ごとに掘り下げた議論がしたいという意見もあったが、今回の狙いとしては、「排出事業者と処理業者間連携の必要性の認識向上」に主眼を置いており十分な水準に到達したと考えられる。
- ・ 一方、排出事業者と処理業者の間にはコスト削減と 3R 推進というジレンマが存在するが、ワークショップを通じて改めてその難しさについての言及もなされていた。双方がジレンマを乗り越えるためには、最適なパートナーを見つけるための情報と、パートナーとしてのより踏み込んだ関係性の構築が必要となる。今回のようなお互いの立場・事情、考え・価値観を理解するための「場」はあくまできっかけであり、実際の動きにつなげるためには継続的な取り組みが必要であると考えられる。
- ・ アンケートの回答のなかには、今後の具体的な展開に期待する意見も見られた。今後取り組みを継続する場合、同様のイベントを継続的に実施する、もしくは実際のアクションへの橋渡し機能として、以下のような排出事業者・処理業者間の連携ネットワークの構築を並行して試行することが案として考えられる。

#### 【排出事業者・処理業者連携ネットワーク（案）】

- 対象：排出事業者及び優良産廃処理業者
- ネットワーク内の情報発信・情報交換の仕組みの構築（メーリングリスト、ポータルサイト等）
- 分科会の設置（個別の課題や領域について知見やアイデアを得る／同じ課題を共有するメンバーとの情報交換、関係構築／排出側のみ、処理側のみ企画も検討）
- ネットワーク運営事務局の設置（想定する機能：ネットワーク規程検討／メンバー情報管理／グラウンドルール設定／メンバー募集・情報共有の仕組み／有益な情報のやり取りやアクションへの移行の促進（メーリングリスト、分科会等）、効果測定等）
- まずはトライアルとして地域を限定して開始し、順次地域ごとにネットワー

クを構築する。

➤ 報告会やパブリシティ等によりネットワークでの取り組みを共有・発信する。

## 2. 処理業者の優良認定取得の機運醸成について

- ・ イベント実施後の認定未取得者の認定取得に対する意思について、東京では「とても高まった」「高まった」が88%、大阪では58%との結果となった。一定の効果は認められたが、「優良業者が選ばれない現状がある」「メリットが少ない」と言った意見も聞かれた。今後、①のようなネットワークが構築されれば新たなメリットとなり得る。

## 3. 運営面について

- ・ ワークショップという参加型プログラムであったこと、「循環の高付加価値化」という難しいテーマであったことから集客のハードルが高く、特に大阪開催においては課題となった。どこまで情報を出すことになるのかといった問合せもあり、引続きプログラム設計の際には留意する必要がある。
- ・ 参加者がよりアクションにつなげやすくするために、ワークショップの記録を何らかの形で参加者へフィードバックすることを考えたい。
- ・ 名刺交換タイムでは、どうしても一部の参加者しか名刺交換ができない。多くの参加者同士が名刺交換できるような進行・仕掛けがあった方が良かった。

以 上



**【別添資料】**

- 資料 1. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧
- 資料 2. 講演資料（第 1 部・第 2 部）
- 資料 3. シンポジウム・ワークショップ実施風景記録
- 資料 4. ワークショップアウトプット（グループ発表時資料のみ）
- 資料 5. アンケート回答結果一覧
- 資料 6. 日経エコロジー掲載記事広告
- 資料 7. 環境省ホームページ報道発表資料

以 上

資料1. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧(東京会場)

グループ名	担当ファンリター	区分	業種	業務	《資源の循環・有効利用に関して》 これまでに自社で排出事業者/処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください	《資源の循環・有効利用に関して》 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください	本イベントに期待することはありますか	備考
A	アマタ環境戦略支援グループ 田部井	排出側	住宅設備機器製造業	トイレ(衛生陶器 温水洗浄便座)設備の製造 浴室(システムバスユニット・浴槽)設備の製造 洗面場(洗面化粧台)設備の製造 キッチン(システムキッチン)設備の製造 他	広域認定制度の活用により、 ・浴室、ビルトイレ等納品工事の際、梱包残材の回収リサイクル ・一部使用済み製品の市場回収リサイクル ・市場より回収した自社使用済み製品のプラスチックを活用し 製品内部部品・事業所活用パレット・社内活用品・活動PR用ノベルティを製作活用。	3Rの推進における国の方針が2R(リデュース・リユース)に重きを置く流れとなっていくことへ、住宅設備機器の作り手側の追従が今後の課題である。  市場から回収するしきみがないものをどうやってコストを抑えて回収し、資源として循環させる事ができるのか? そのためには連携・協働がヒントとならないか?	自社の視点のみではない他業種や処理業者側の視点での考え方や先進的な情報を得る事により、今後の資源循環整備などに生かしていきたい。	
			情報通信機器製造業	光部品(光通信用の増幅器、グレーティング、モジュール)、光コネクタ、光ファイバ融着接続機、光ファイバ工用用の工具類の製造	なし	リサイクルには向いている(ゼロエミは達成している)が、有価物化は進捗しないので、廃棄物量は減らない。有価物化を進めたい。あるいは、自前の処理で採算が取れるなら、試みたい。	廃棄物をいかに減らしてゆか、また社内教育で、モチベーションを上げたい。	
			食品・酒類卸売業	国分グループ(食品・酒類・チルド・冷凍・生鮮の卸売り業他惣菜工場、パン粉工場) 43社、250事業所の環境管理を管轄。サプライチェーンの中で環境負荷を低減する取り組みを推進しております。	日本能率協会と処理業者と一緒にグループ全体の廃棄物実態調査を行い食品リサイクルを構想したが、量、質、ルートの問題どれもクリアできずリサイクル網を構築できなかった。	コンプライアンス徹底の観点から優良な事業者とお取引したい 全ての廃棄物をリサイクルしたい 電子マニフェストによる産業廃棄物管理を徹底したい	廃棄物処理の問題に取組むに当たって、いつも感じてきたのは排出事業者の立場の者には、処理業者の立場がわからず、処理業者には排出事業者の立場が本当には理解されていないのではないかと感じました。 日本社会全体で資源循環を考えるには、このような形で排出事業者、処理業者が顔をあわせて話し合うイベントが有効ではないかと思ひ参加を申し込みました。	
		処理側	貴金属製造業	貴金属を含む廃棄物を回収し、有価物としてリサイクルする事業を展開しています。	病院から廃棄される、レントゲンフィルムを焼却し燃え殻から銀の回収を行っています。 また、レントゲン廃液の定着液からの銀の抽出を行っています。	都市鉱山と云われる、小型家電や工業系廃材からの希少金属のリサイクルを進めて行きたいと思っております。	新たな案件やアイデアなどのヒントを取得出来ればと思っております。	
			産業廃棄物処理業	東京都内(23区内)及び川崎市をメインとした、事業系一般廃棄物、産業廃棄物の収集運搬・処理を業として行っております。 優良産業処理業者です。  参加予定者の私(及川)は、産業廃棄物処理業経営塾の第2期卒業生で、経営塾OB会の会員で	1. 排出事業者様ご希望になられた、古紙のリサイクルループにご協力しています。 2. 廃食用油の再生(バイオディーゼル化)として、東京都内で産廃処理の許可(許可:再生)を頂き、自社トラックに利用すると共に、建設現場の重機の燃料として利用されております。(鹿島グループ/バイオディーゼル活用プロジェクト) 3. 自社工場で、古紙類から不適物を除去する機械選別設備(光学式選別機)を導入し、マテリアルリサイクルを推進しています。	小型電気機器類のリサイクル。 有機物付着プラスチックのリサイクル(課題)。	資源循環が可能な物を知りたい。 まだ、紙、プラスチックなどは排出事業者も資源として捉えてはいるが、他の、どのような物をどこに持っていくか、循環となるのかを知らない。 当社もまだ理解度が低い。  普段、耳にすることができない同業他社の処理・リサイクル方法について知りたい。 その上で、何(どんな物)が必要で、当社がどのように取り組めばよいのかを検討したい。  排出事業者が廃棄物処理業界をどのように考えているのかを知りたい。	
			廃棄物処理業	一般廃棄物収集運搬 一般廃棄物中間処理 産業廃棄物収集運搬 総合建物管理(ビルメンテナンス) 環境コンサルティング	海外事業コンソーシアム	環境×エネルギー	過去の法や規制にとらわれず、最適な資源循環を創造する為の情報と今後の方向性。	
B	産業廃棄物処理事業振興財団 改田部長	排出側	電子デバイス製造業	半導体各工場環境の本社	廃プラの有価売却など	有価物化の拡大、単価アップ	資源有効活用をすることにより、有価物化の拡大、単価アップにもつながるようなアイデア	
			半導体製造装置	【事業内容】 精密加工装置、精密加工ツールの製造ならびに販売  【担当業務】 ・環境マネジメントシステムの構築・維持・推進 ・廃棄物管理業務 ・製品含有中の有害物質調査 など	産廃業者と連携し、平成21年1月20日に産業廃棄物広域認定制度の認定を受けた。	?汚泥の有価売却 今や単なるリサイクルではNG、当たり前である。 如何に価値あるものとして売却できるかがポイントで、経営者もそれを望んでいる。  ?社内でのリユース促進 未だ社内では新品同様なものが廃棄されることがある。 社外の前に社内で循環させる仕組みをどうするか課題としている。	新たな循環方法について、参加者の考えを聞きたい。	
		処理側	産業廃棄物処理業	産業廃棄物の収集運搬 特別産業廃棄物の収集運搬 産業廃棄物の破砕・選別・造粒による中間処理 産業廃棄物の溶融による中間処理	・電気メーカーと連携し廃家電からでた廃プラを再生ペレットに加工する。そのペレットでリサイクルパレットを製造し、家電メーカーで使用する。 ・ショピングセンターから出た廃プラを再生ペレットに加工する。そのペレットでリサイクルゴミ袋を製造し、ショピングセンターで使用する。 ・食品製造業者や飲食店から出た生ごみをバイオガスに加工する。そのバイオガスで発電及びガスを精製し戻すことで、排出事業者が使用する。	現状の課題 ・資源の有効利用には適正な処理費用の負担が必要です。しかし大部分の排出事業所(担当者)は有効利用より安い処理を選びます。担当者の方は資源循環や有効利用には協力したい意識はあるのですが廃棄物にはお金を掛けられないのが現状です。  今後取組みたいテーマ ・太陽光パネルのリサイクル	・資源の有効利用を拡大させることで、優良処理業者が発展出来ることを期待する。	

グループ名	担当ファンリター	区分	業種	業務	《資源の循環・有効利用に関して》 これまでに自社で排出事業者/処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください	《資源の循環・有効利用に関して》 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください	本イベントに期待することは何ですか	備考	
			化学工業薬品加工・販売業、産業廃棄物処理業	工業薬品の仕入れ、加工、販売からリサイクル、廃棄処理までを行っています。 特に、工業用途の使用済洗浄剤を蒸留精製し再生溶剤を生み出すことを主業としています。 関連して、工場や研究所等から排出される廃棄薬品類などのリサイクルや処	産官学連携(松戸市内事業者、市役所、大学研究機関の連携)で、市内の廃食用途のBDF化(バイオ燃料)事業に取り組んだ実績がある。	・廃棄薬品類の再利用、リサイクル	排出事業者と処理業者が手を組んで、資源の循環・有効利用となる新事業への展開となること。		
			産業廃棄物収集運搬業	・(特管含む)産業廃棄物収集運搬業 ・関連会社にて産業廃棄物処理業(肥料化) ・一般廃棄物収集運搬業 ・古物商 ・環境に係るコンサルティング ・環境及び衛生商品販売 その他	各排出事業者へ最適な処分場及びリサイクル方法を提案することが、即ち「連携・協働」だと考えております。中でも、食品工場から排出される有機汚泥や残さを肥料化し県内の農家へ、そこで採れた野菜を排出事業者へ食して頂く組み合わせは、肌で体感できる素晴らしいリサイクルループだと感じております。	群馬県はコーヒー粕排出量が全国一位だと言われており、その大半をお預かりする立場として、コーヒー粕や茶粕、そして有機汚泥の次なる有効活用をテーマとしております。肥料化からバイオマス発電の原料へ、そしてFITを活用したバイオガスプラントへの展開を協力各社と模索中でございます。	・排出事業者様の本音やニーズを把握すること ・処分場様の現状の取組みや今後の展開を学ぶこと ・双方忌憚ない意見交換をし、未来の「エコ環境ビジネス」の展望を語り合うこと ・得た経験を社員及び取引先様へ周知し、今後の事業に活かすこと		
C	産業廃棄物処理事業振興財団 吉川主幹	排出側	食品製造業	調味食品、保存食品、飲料、その他の食品の製造・販売 種苗、青果物の仕入れ・生産・販売	特になし	容器包装に付された食品・飲料等に対するリサイクル	排出事業者と処理業者との情報交換 優良な業者との関係強化		
			建材・住宅設備機器製造業						
			化学工業	化学工業	特になし	廃溶剤、廃油の燃料化	廃棄物の有用化・有価物化		
		処理側	産業廃棄物処理業	産廃、一廃営業および収集運搬	有価金属回収	CO2排出削減 金属資源の有効利用促進	協業の次に来るものを情報交換したい		
			産業廃棄物処理業及び製鋼原料加工業	産廃物の中間処理より金属の選別後製鋼原料として再生加工まで一貫処理を行い、産廃物の有効利用に努めている	連携協働を望みながら許可可ISO等取得に努め信頼される様にしてきたが、相手を見つけれなかった。何が欠けているのか探りたい	当社は、現在金属処理の許可のみで排出事業者からの依頼を受ける事が困難な状況にあり、業としての機能が100%生かせず、閉そくに悩んで居る状況である。これをいかに打開するかを、学たい	現在の多くの排出事業者が何を期待望んで居るかの情報を得たいと思ってる		
D	アマタ環境戦略支援グループ 田中	排出側	化学	印刷材料、医薬、医療機器、光学デバイス・機器、写真材料、等	廃プラの有価売却(PET、TAC)に際して引き受け可能なように分別、水酸化アルミの有価売却に際して脱水	有価物として売却する不要物を増やしていく。廃棄物であっても処理業者がリサイクルして有価売却できるようにすれば、排出事業者が支払う処理費用も下がるため結果としてリサイクルが推進されることになる。このような方向にしていきたい。排出事業者と処理業者の間の情報共有が必要であるため今回のような場に積極的に参加していきたい。	有価物化する場合、排出事業者と処理業者のマッチングが必要。本セミナーがそのための場となれば良い。		
			繊維製造業	炭素繊維の製造、加工。	処理困難で、埋め立て処理するしかない廃棄物を、その廃棄物の特性を共有化し、実際に処理施設でテストを行い、最終的には有効活用処理することができた。	各廃棄物が、処理する側にとって価値あるもの(有価化)となるよう活用される方法を見出していきたい。	他社様との交流を通し、情報を交換したい。		
			医薬品製造業	グループ全体の環境・安全に関する統括。各サイト、グループ会社の支援。	産廃物のリサイクル(肥料化)。	資源の循環云々よりも、産廃物全体の法規制や仕組みを整理整頓して、グループ会社で共有できるようにしたい(組織の基盤強化)。	田中先生の見解を拝聴すること。事例発表。「取組みの考え方」を知ることができたら幸いです。		
		処理側	産業廃棄物処理業	産廃物の収集運搬・処理及びリサイクル、ビルメンテナンス、設計など	当社では、それまでほとんど焼却処分されていた食品残さに着目し、平成19年10月より本格的に食品リサイクル事業に着手しました。本事業では、飲食店やスーパーから排出される食品残さを当社の食品リサイクル施設で液体肥料にリサイクルし、グループ会社の農業生産法人アースファームや近隣農家に供給しています。その中で食品関連事業者の方と共同で「食品残さ⇒液体肥料⇒農作物⇒販売⇒食品残さ」という循環型のリサイクルを構築し、食品リサイクル法に基づく「登録再生利用事業者」や「再生利用事業計画(リサイクルループ)」の認定を受けています。	課題としては、建設系産廃物のリサイクル率の向上や広域的な首都圏における食品リサイクルの提案、また、優良産廃業者であるという面をどういった角度からアプローチしていくかなどがあります。	排出事業者と処理業者両者にとって有益な循環利用について、優良産廃業者としてどういったことができるのか、今後の課題や展開を理解できる機会であると期待しています。		
		産業廃棄物処理業	コンクリート塊の中間処理、収集運搬(積み替え保管を含む)	積み替え保管施設を活用して、自社棧橋から船舶による海上輸送で、環境負荷の削減に役立っている。	コンクリート塊から出来る再生砕石の用途拡大策	排出事業者の意向			
		廃棄物処理業	1. 金属リサイクル 2. 産業廃棄物収集運搬・処分 3. 解体工事 他	1. リサイクル設備・フローの構築 2. リサイクル設備の開発 3. 処理困難物のリサイクルフロー構築 など	まだまだ有用な未利用資源がたくさんある中、単純に処理するだけでは無く、リユース・リプレイスにより価値あるものを見出した。	排出事業者が困らている現状の声をヒアリングしたい。			
E	アマタ環境戦略支援グループ 鈴木	排出側	食品製造業	製菓製パン素材の製造販売	食品残渣の養豚等への飼料化	食品残渣や工程から排出される廃棄物の有効利用(有価物化)	産業廃棄物の有効利用による排出量の削減と処分費用の削減		
			製造業	中間処理業者管理全般および社内管理業務	中間処理業者と最終処分率の実績に関するコミュニケーションなど	クローズドリサイクル、リユースなど	リユースやクローズドリサイクルなど高度なリサイクルに関する情報入手と製品等回収における物流システムの事例(他社連携等)		
			総合商社	代表的なものは卸売業だが、大型投融资によりグループ全体での業態は多岐に渡る	産廃物3Rの実現 ■ 産廃物の有価売却 ■ 埋立処理⇒焼却処理⇒再資源化処理 ■ 一般焼却処理⇒サーマルリサイクル認定処理業者での焼却処理	定義の統一化 例)日本貿易会では、再資源化の分母に有価売却分は含まない。日経環境経営度調査では、上記含む等 上記の場合、有価売却の推進で3R(リデュース)を実現すると、再資源化率が悪化するというジレンマに陥る。	活発な意見交換		

グループ名	担当ファンクター	区分	業種	業務	《資源の循環・有効利用に関して》 これまでに自社で排出事業者/処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください	《資源の循環・有効利用に関して》 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください	本イベントに期待することは何ですか	備考
		処理側	産業廃棄物処理業	関東エリア中心に収集運搬し油性廃棄物のリサイクル及び中間処理を行っている 再生重油製造販売、コンクリート剥離剤製造販売、施設メンテナンス	大手石油メーカー商社と組んで、傘下の全国ガソリンスタンド対象に廃棄物処理のリサイクル及び処理システムを作り現在約2000SSとの契約で運用している。 全国の同業者(現在約40社)でネットワークを構築し「安心・安全の廃棄物処理・リサイクルが実現できる社会を目指す」をビジョンに、各企業の向上、ハイレベルな教育をするとともに全国ハイレベルなサービスを目指す	当社は油性廃棄物を扱い63年間リサイクルをしてきた。今後も引き続き廃棄物由来のものを原料としエネルギーに転換し、環境負荷低減・CO2削減に取り組む。 また、国内はもとよりアジアの急発展に向け日本で構築した技術をアジアモデルとして海外展開も視野に入れている。	廃棄物業界は動脈と静脈産業が連携し、3Rに取り組みなければならない。 1例ですが現状は1部の排出事業者を除き、コスト重視で廃棄物処理・リサイクルを考えている。やはり無理な低コストではリサイクルは推進しない。そんな問題を解決できるような場を、とんとんでできればと思っています。また、排出事業者とコンソーシアム等組んで環境に対する負荷を低減していく、一歩になればと思っています。	
		処理側	鉄スクラップ加工業	製鋼・鋳造原料、非鉄金属原料等の加工販売。 使用済み自動車処理(自リ法:引取・フロン類回収・解体・破砕)。 廃自動車販売機・業務用空調・業務用冷蔵冷凍機器の処理。 各種廃工業製品処理。 大物ステンレススクラップの解体・ステンレススクラ	輸送用機械器具製造業(メーカー)由来の金属スクラップをメーカー域内で資源として再利用する「資源遠流システム」の運用。 具体的には切削加工くずを鋳物製造工程で原料として使用。 目的は「量」「質」「価格」の安定化。 使用済み自動車由来の樹脂部品(バンパー・ダッシュボード等内装品)を素材別に分別し、洗浄・破砕を経てペレット化したものを再び自動車用樹脂部品として再資源化。(一例:EV内装樹脂部品として採用、CARtoCAR)	弊社では同一敷地に「カーシュレッダー、ギロチンシャー、3方締プレス機、2000t鋳物割機」等の大型なりサイクル装置を備えており、これまでは「量」を追いかけてきました。平成10年に参入した自動車解体事業を通じ、ビフォーシュレッダーをテーマに掲げ、主に鉄を回収する装置であるシュレッダーの加工前に、鉄よりも高価な素材を人手で回収するシステムを構築しておりますが、さらに微細な「小型家電リサイクル法」の対象でもある電子機器からのレアメタル等有用資源の回収が社会的にリサイクル事業者へ要求されるなか、これに対応し得る「質」を向上させる事業への変貌にチャレンジしていきたいと考えております。 また、これまでリサイクル企業間の連携はあまり行ってきませんでした。が、それぞれの特性を共有し、包括的に資源の循環に貢献できる体制を構築することも前向きに進めなければなりません。	排出事業者様ならびに社会に求められる「高付加価値」の真意や、優良産廃業者の優位性とはなにかを体感し、今後の方針に取り込みたい。 排出事業者様の資源に関するニーズを知り、リサイクル業者として何ができるか、課題を獲得したい。	
		処理側	産業廃棄物処理業					140204追加
		処理側	金属スクラップ加工業	・金属リサイクル ・プラスチックリサイクル ・固形燃料(RPF)製造 ・希少金属リサイクル ・自動車解体リサイクル ・建物解体 ・産業廃棄物中間処理 ・産業廃棄物収集運搬 ・貿易	・廃OA機器のプラスチックマテリアルリサイクル(OA機器メーカー) ・自動車由来のプラスチックマテリアルリサイクル(自動車メーカー) ・家電由来のプラスチックマテリアルリサイクル(家電リサイクル工場)	複合物(金属とプラスチック、レアメタル等)の物理的分別、選別技術については今後さらに深堀を進めたいのと同時に、化学的分別についても取り組んでいきたい。	処理業者として今後取り組むべき課題について多様な情報交換を希望いたします。	
F	アマタ環境戦略支援グループ末次	排出側	医薬品製造業	葛西研究開発センターの環境マネジメント全般(特に廃棄物関連)	とくにありません	・一般廃棄物として清掃工場で処理している食堂厨芥のリサイクル	現在、各処理業者との契約内容を見直し中のため、排出業者として、処理業者とのコミュニケーションで留意すべき点を学びたいです。	
		排出側	建設業	建設副産物管理業務全般	現在取組中 ・大規模ガラス構造物解体に伴い排出される廃ガラスのリサイクル(国内大手ガラスメーカーと連携して対応中) スキーム構築済 ・廃石綿溶融処理ルート(電炉)を利用したアスベスト付着金属廃材の有効利用 ・残置物の適正処理ルート(リサイクル業者・廃棄物処理業者と連携) ・建物事前調査(有害物)の廃棄物処理業者との連携	現在の課題 ?建設汚泥・解体ガラ再生利用滞留により委託先確保が困難 ?安定型/管理型埋立処分場の確保 ?埋設廃棄物に混入の石綿含有建材の取り扱い ?長期寿命を目的に開発されている建材/工法の解体時処理方法 ?焼却灰・溶融スラグ等の管理型物再利用建材の廃棄時の取り扱い	廃棄物リサイクルにおいて、建設資材に再利用されるものも多く見受けられるが、再廃棄時の事が考慮されていないケースが散見される。また、各素材メーカー・建材メーカーが長寿命・環境負荷低減の名のもとに、廃棄時において処理困難物となる物を世に送り出している現実がある。資源再利用にあたり廃棄時を考慮するという当たり前のことを業界標準としてもらいたい。	
		排出側	電源及び通信	電源・精密機器(モデム、テレメータ)等の設計及び販売	中間処理業者へ委託	廃棄物の処理とリサイクルに積極的に取り組むたい。 特に、特別管理産業廃棄物の環境を考慮した処分方法について勉強したい。 板金の塗装、メッキ、印刷等の行程より排出される廃棄物の処分方法について、見直したい。	排出事業者と処理業者の双方の立場から考慮した、廃棄物処理方法について、意見や提案をしながらのディスカッションをしたい。	
		処理側	産業廃棄物処理業	産業廃棄物の中間処理行で焼却処理・中和処理・破砕処理を行っている。	無し。	焼却副熱を利用した排熱の有効利用や発電等のサーマルリサイクル	排出事業者との連携・協業	
		処理側	産業廃棄物処理業	廃棄物中間処理及び収集運搬業務環境コンサルタント(排出事業者向け)メーカー様向けの廃棄物全般一元管理など	排出事業者の廃棄コストダウンに対し、委託先選定を絞り、より有価になる委託先や運搬方法など提案し、実施することで全体コストを下げることにした。	過大なゼロエミッションへの処理会社への要望について	排出事業者様のお考え及び、今後の方向性の確認。 協働への取り組み方の模索	
		処理側	産業廃棄物処理業	産業廃棄物収集・運搬業 一般廃棄物収集・運搬業	《資源の循環・有効利用に関しての取組み》 ?排出事業者様のご依頼で、お客様の社員の方々に対しての「廃棄物処理に関する講義(分別した廃棄物はどうなるのか?)」の実施	《資源の循環・有効利用に関しての課題意識》 ?先進的な処分業者様とのネットワークの構築	《本イベントへの期待》 ?先進的な同業者様の取組みに触れることによる自社のモチベーションアップ	
G	アマタ環境戦略支援グループ武津	排出側	飲料水及び食品事業	自動販売業	特にありません。	回収缶・PET及び空容器入れの効率的な再利用を検討したい。	少しでも環境問題に役立てるように知見を広めたい。	
		排出側	サービス	総合商社の総務部門の受託業務	事業系一般廃棄物として処理していた食品サンプル(1t/月程度)を、極力再資源化できるよう、廃棄ルートを確立した。	すでに廃棄物のリサイクル率は90%を超えているが、その内容にサーマルリサイクルも多く含まれていることから、今後は徐々にリサイクルの内容について検討したい	廃棄物管理についての情報収集(法改正、市中の現況、他社の取組み等)	



グループ名	担当ファンリター	区分	業種	業務	《資源の循環・有効利用に関して》 これまでに自社で排出事業者/処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください	《資源の循環・有効利用に関して》 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください	本イベントに期待することは何ですか	備考	
			小売業	店舗における建物設備の維持管理及びハウスキーピング業務	弊社店舗から排出される食品廃棄物や発泡スチロールなどのリサイクルなど	店舗から排出される廃棄物の有価物化、ゼロエミッション。 課題として店舗における分別推進が挙げられます。	廃棄物に付加価値をつけるために、排出事業者がすべきこと及びそのときに妨げとなる課題を抽出したい。また、実現性が高い施策があれば、本来業務に結び付けていく機会となるよう期待しています。		
		処理側	廃棄物収集運搬業	・廃棄物関連の調査業務 ・循環型社会形成のための普及啓発(3Rイベント企画等) ・環境アセスメント情報発信業務	・収集運搬業者の組合による中小企業向け紙ごみリサイクルシステムの普及啓発支援(セミナーの企画運営等) ・排出事業者の食品ロス削減の仕組み(フードバンク等発生抑制およびリサイクルシステム等)の普及啓発支援(セミナーの企画等)	上記2つのセミナーの企画を通じて、処理業者の目線から情報発信するだけでは排出事業者の行動変化を誘因できないことが課題として浮き彫りになった。現在は、排出事業者が発生抑制/リサイクル等に取り組むための社内調整(ソフト面を中心に)に焦点を当てた情報共有の支援を行っている。 また、排出事業者は収集運搬業者から廃棄物の情報を入手することが多いが、実際には収集運搬から中間処理、リサイクルもしくは最終処分等に流れるまでも様々な力が働いており、その辺りも踏まえて、中立的な立場から処理業者が正しい情報を排出事業者に提供することが重要と考える。	処理業者として排出事業者の本音を伺う機会は少ないので、排出事業者がリサイクルシステム等の活用に踏み出せない本音を伺いたい。また、良いアイデアが出ればぜひ実際に活用したい。		
			ビルメンテナンス業	・廃棄物処理業務(収集運搬業務) ・ビル工場総合管理 ・清掃管理業務 ・設備管理業務 ・緑地管理業務 ・害虫駆除 ・給・排水管理	弊社は収集運搬業務を行い、排出事業者様に処理先等の提案をしています。お客様(排出事業者)からは100%リサイクルを求められています。今回は複合金属類を分類して、金属類と廃プラに分けてもらい、資源の有効利用を図った。	廃棄物を分類して、有価にできるかの検討と、分類する時のコスト比較を行いお客様に喜んでいただける方法を提案したい。	優良認定制度を理解し、メリット、デメリットを把握して優良認定を取得したい。		
			産業廃棄物処理業	産業廃棄物の収集運搬・中間処理、一般廃棄物の収集運搬、東京都二十三区清掃事業、区のペリトール及び容器包装の資源化処理の委託 ビル清掃、企画制作、コンサルティング	ホテルニューオータニ様と食品残渣の肥料化のための分別システムの構築及び社員教育 その他ホテルでの飼料化に向けたシステム構築他意識啓蒙 小学生対象の自社施設を使っでの環境教育の実施	排出者(企業も生活者も)の廃棄物の分別意識の低さと同時に、製品を世の中に出していくメーカー側(川上・上流)の廃棄される時の製品設計がされていない。川下・下流に行ったときの処理についてあまり考慮されていない。 (容器包装や家電等は法律がある為除く) またリサイクル素材が十分に活用されていないことも問題。 ヴァージン素材との価格差などリサイクル素材が有利になるような市場になっていない。 今後具体的に取り組みたいと思っっているのは、プラスチックのリサイクルを考えていきたい。	日本経済において、リサイクル素材がしっかり根付いた新しい「循環産業」の姿が明確になり、進むべき道を発見できること。		
			産業廃棄物処理業						
H	アマタ環境戦略支援グループ小峯	排出側	金属製品製造業	給湯器、ふろ釜の製造販売。GHPの販売施工メンテ。	マテリアルリサイクル(プラスチック)による廃棄物の削減。	協力会社との連携。	排出事業者、処理業者それぞれが有する課題の共有化。		
		排出側	飲料容器製造業	産廃管理・環境事務局	特になし	排出から末端処理までの物質収支の精緻化	処理業者の考え方、動向の把握		
		処理側	産業廃棄物処理業	産業廃棄物処理業全般 汚水汚泥処理 リサイクル技術、実務 再資源固形燃料(RPF)の生産 環境コンサル業務全般	?廃棄物処理の全国展開をするにあたり、広域認定含めての業者間のネットワーク化によつての処理体制。 ?再生資源燃料の供給にあたり、製紙会社との関係、協体制度での物流提案など	?資源循環の必用を強く言われて久しいが、さらに処理技術や対応能力強化のためには、産官学の協業、連携での新しいリサイクル技術の開発や、一企業の枠を超えた組織で対応出来るシステムの構築が必要と思料する。 ?また、企業の全国均一の処理体制、安心、安全な処理の徹底に関しては、処分業は「地域の許可可」の問題もあり、全国規模でのネットワーク化、優良業者間の情報交換が不可欠である。業者間の垣根を越えた対応能力の強化をどのようにしたらよいか。今こそ必要ではないか? ?排出事業者の直面している課題に対する認識を深め、処理業の事業レベルを上げたい。	幅広い意見交換の場で、今後の事業展開の参考になればありがたい。各社の直面する、現実の認識と、「連携」「協業」「ネットワーク化」の実現で解決できる可能性を探ることが出来れば幸甚である。 色々勉強させていただきたい。		
		処理側	産業廃棄物処理業	1. 都内での中間処理業務(湿式処理、焼却処理、他) (試業や実験・研究系廃棄物等に代表される化学系多品種少量廃棄物の処理や貴金属などの資源化) 2. 化学系廃棄物の小口回収業務と廃棄物管理 (化学系多品種少量廃棄物の小口回収や排出現場)	1. 中小排出事業者の小口回収支援業務 都内の組合組織(製造業)環境委員会への協力 2. 排出事業者の現場管理支援 都内大学の化学系廃棄物の管理(安全、遵法面での体制見直し、維持管理など)	資源の循環・有効利用の前提となる。安全、遵法面での顕在化しているリスクについて課題意識をもっています。 排出現場における廃棄物の現場管理には、様々な組織での事情や背景が有り、個々の事例を基に具体的解決策を共有することに取り組む事ができればと考えます。	化学系廃棄物の分野では、資源の循環・有効利用の前提として、安全、遵法面での管理のクオリティを上げる事が重要課題と位置づけられる風土を望みます。 価格や資源化のメリットやクオリティは解り易いですが、安全、遵法などへのサービスのメリットやクオリティは理解が困難な分野と考えています。また、まだまだ改善の求められる分野と考えています。		
		処理側	産業廃棄物処理業	産業廃棄物処理業、産業廃棄物収集運搬業、一般廃棄物収集運搬業	産業廃棄物から固形燃料(RPF)を作成。サーマルリサイクル。	排出事業者と処理業者のリサイクルとしての廃棄物の受け止め方の違い。	排出事業者の意見が聞きたい		
	不参加	排出側	総合設備業	電気工事、情報通信、空調工事、リニューアル工事	建設副産物の発生抑制・再利用、地球温暖化防止に省エネルギーシステム設計・施行など、低炭素社会の実現積極的に取り組んでいます。	廃棄物の発生抑制、設備・機器の交換・更新をして、電力使用量の抑制。	電子マニフェスト化、廃棄物低コスト処理、混載廃棄物等の有価物化、PCB機器処理の推進、	当日キャンセル	

グループ名	担当ファンクター	区分	業種	業務	《資源の循環・有効利用に関して》 これまでに自社で排出事業者/処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください	《資源の循環・有効利用に関して》 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください	本イベントに期待することは何ですか	備考
	不参加	排出側	古紙リサイクル原料製造・卸売	古紙(プレヒート品)の買入れと、リサイクル原料としての加工、製紙会社への再生古紙用原料としての売却を行っています。行政回収品のリサイクル中間業者としても活動を行っています。	紙製品のリサイクルの他、プラスチック製品についても有価で買い取り、リサイクル原料として引き取り先を探し、リサイクルへの取り組みを行っています。循環型社会をさらに進めるために、各中間処理業者、再生事業者とのネットワークづくりを行っています。	弊社ではまだマニフェスト廃棄物がかなり存在します。リサイクル原料で循環していますが、法的にマニフェストの発行が義務付けられている品目がありますが(ホバレット等)、今後再利用についての研究を進めて、循環型社会を理想的な形にできるよう取り組んでいきたいと考えています。	いろいろな事業者との交流を深め、新たな循環型ネットワークの構築ができれば幸いです。	当日キャンセル
	不参加	処理側	その他製造業	環境関連、省エネ関連事務局	廃有機溶剤の蒸留再生、廃PETのリサイクル、廃塩ビフィルムのリサイクル、製紙スラッジの敷料	廃棄物としての排出量低減が頭打ちになってきているので、さらなるリサイクルの方策がないか模索中。	リサイクル用途例の把握	当日キャンセル
	不参加	処理側	廃棄物処理業	・一般廃棄物収集運搬業 ・産業廃棄物収集運搬業 ・一般運送事業 ・古紙リサイクル ・養豚事業・食品のリサイクル ・廃木材のリサイクル ・製鉄/非鉄金属/廃家電製品/廃棄OA機器類の金属、資源のリサイクル ・廃棄物に関するコンサルティング業務 ・引越業務	スポンサーになっているJリーグチームと3R啓発イベントなど多数	循環の輪拡大、新たな品目の有効利用策を模索しています。	排出事業者のニーズをつかみたいのと処理業者の考え方を整理したいと思います。	当日キャンセル
	不参加	処理側	産業廃棄物処理業	■汚泥処理事業 ヒルピット、グリーストラップ、排水除外設備、分離槽等から排出される汚泥を中間処理し、肥料やセメント原料としてリサイクル ■オイルリサイクル事業 使用済み潤滑油、マシン油、作動油やトランス油、含油水などをリサイクル	使用済みエンジンオイルやオイルエレメントといった自動車産業から排出される廃棄物を、リサイクルする連携を自動車メーカーと行っている。	産業廃棄物リサイクル業界の更なる技術革新により、日本を世界一のリサイクル技術大国へ。	最新の動向と、企業間若しくは産学官などの連携による新しい市場づくり、技術革新そして、海外への進出など	当日キャンセル
	不参加	排出側	印刷業	出版印刷、商業印刷、包装印刷、電子基板、その他印刷全般	・双方の管理レベルの向上を目指した現地視察の方法に関する相互検討	・当社からの排出物の国内での有益、有効な循環利用。 ・排出物を、原材料に再利用可能となるような新たな循環システムの構築。	・循環型社会形成に向けた動きと法規制との問題点明確化。 ・循環型社会形成に向けた動きに対する法規制の緩和の契機。 ・循環型社会形成に向けた動きの活性化。	当日キャンセル
	不参加	排出側	建設業	環境関連規制の情報収集 環境関連規制に関連した業務の各支店の支援・指導	特に無し。	・作業所での産廃処理業者と協働した、リサイクル施策の展開 ・新たなリサイクル建設資材の開発 ・災害廃棄物の処理の促進	産廃処理業者と連携してできる、リサイクル施策・適正処理の推進等で参考にさせていただきたい。	当日キャンセル
	不参加	処理側	産業廃棄物収集運搬・中間処理	中間処理(脱水・中和・油水分離・焼却・破砕・乾燥)等を行っています。 <a href="http://www.tobu-s.co.jp/">http://www.tobu-s.co.jp/</a>	廃水処理において委託物の情報の通り取りを密にする事で、リサイクル(セメント向け)処理となる様に試行錯誤を行っている。	排水処理の新規設備を計画しており、リサイクル率の向上について、様々な手法を検討しています。	有用な情報が収集出来る事。	当日キャンセル
	不参加	排出側	自動車製造業	・工場より発生する産業廃棄物の適正処理管理 ・産業廃棄物処理費用の低減活動	・エンジン・トランスミッション工場が発生する金属部品研磨汚泥の金属材料化。(電気炉製鉄製造における金属材料化 有償化) ・廃プラスチック類の材料再生化	・工場で発生する各種汚泥類の材料化(含有金属元素の有効利用)	・現状の取り組みに有効な処理技術、処理業者情報の取得	当日キャンセル
	不参加	排出側	電気機器製造業	環境経営企画、環境管理業務全般	特にありませんが、最終埋め立て処分を再資源化するための協力や電子マニフェストの切替えをお願いします	現行法における、解釈がリサイクルを推進する上で障壁とならないようにすることや排出事業者責任に即しての廃棄物リスクマネジメントの取組み	新たな協業課題への取組み 排出事業者と処理業者とのコミュニケーション	事前キャンセル
	不参加	処理側	産業廃棄物処理業	千葉県原市において、産業廃棄物収集運搬業と産業廃棄物中間処理業を行っています。	特になし	特になし	今後の動向、情報	事前キャンセル
	不参加		廃棄物コンサル業	廃棄物処理会社の経営支援 廃棄物仲介業	焼却処理されている可燃物中の紙類の回収設備の事業化 バイオマスを含むエネルギー回収中間処理設備の事業化提案	排出事業者、処理業者を組み込んだPFI手法での廃棄物中間処理設備事業	新規のビジネスモデルを提示するための問題点等の把握	人数都合によりお断り
	不参加		出版業	法令に関する書籍を出版しております。	残念ながら、ございません。	出版業として資源の有効活用に取り組めるものがないか考えたいです。また、排出抑制に興味があります。	処理を委託する関係というだけでなく、連携と協働をすることでどのようなことができるのか学びたいです。	人数都合によりお断り
	不参加		窯業土石製品および化学品製造業	グループ全体の環境戦略の企画	広域再生利用制度を用いて建築用合わせガラスの端材を市中から回収し、ガラス原料として再生利用した。	東京国際フォーラムのようなガラス構造物や全面ガラス張りの高層ビルが解体時期を迎えるまでに、ガラスが分別されて品質の高いガラス原料として再生利用される仕組みを模索したい	興業種担当者との交流	人数都合によりお断り
	不参加		建設業	各発電所の廃棄物処理状況管理他	今までのところ具体的に処理業者と連携・協働して実施した具体的な取り組みはありません。	弊社は普段は然程廃棄物が出る訳ではないが、定期点検工事等に短時間で廃棄物が出る。この時に如何に有効利用して行くかが課題。	収集運搬、処分業者さんの苦勞していること、有効利用(産廃を有価物として販売他)の現状などについて少しでも分かればと思います。	人数都合によりお断り
	不参加		小型タービン製造業	環境管理業務	これから検討したいと思います。	廃棄物削減と有価への展開	今後の環境活動において、参考になるようなネタ、事例の提供	人数都合によりお断り
	不参加		建物維持管理業	建物維持管理に必要な、保安管理・設備管理・衛生管理を主とした事業を電通グループ内で展開。 電通グループのエコ関連の管理等を行っています。	見分別の徹底を図るべく、廃棄ルールの見直し等を協力会社と協業しながら実施。 結果分別率が格段に上がりました。65%以下を推移していましたが、70%以上の結果が出ました。 電通グループの見える化のシステムと協力会社から得た専門知識を組み合わせた結果で出たものと考えております。	紙資源の省資源化について課題意識を持ってあります。 また生ごみの再利用に関する事やエネルギー調整に頼らないエコに関する漠然としたテーマについてを学んでいきたいと思っています。	循環型の産業を支える一企業としての基本的な事について、専門家から学びたい。更には私達の様な施設管理を行う存在が着目すべき展望について聴講する事で学んでいきたいと考えております。	人数都合によりお断り

グループ名	担当ファシリテーター	区分	業種	業務	《資源の循環・有効利用に関して》 これまでに自社で排出事業者／処理業者等と連携・協働して実施した 取り組み事例があればご記入ください	《資源の循環・有効利用に関して》 現在の課題意識や今後取り組みたい テーマについてご記入ください	本イベントに期待することは何ですか	備考
	不参加		産業廃棄物 処理業	中間処理業	通常の業務において リサイクル率 100%をめざし営んでおります。 特に 自治体から委託されている容 器包装リサイクル、ASRの再資源 化、小型家電のモデル事業 etc.	産廃情報ネット(さんばいくん)の維 持管理	優良産廃認定制度の申請において 1情報公開のさんばいくんの審査ポ イント及び日常の維持管理上、大切 なことや便利なやり方・コツ！ 2申請時、特に注意しておきたいこと 特に優良認定が受けられなかった事 例	事前キャンセル
	不参加		貨物取扱事 業	運送業、倉庫業、梱包業、産業廃棄 物収集運搬業	特になし。	資源をどう有効に活用していくか。	環境とビジネスがどのように連携で きるか参考にしたい。	人数都合によりお 断り
	不参加		産業廃棄物 処理業	資源営業部 副部長	トヨタ自動車㈱、住友金属鉱山㈱と HV電池事業リサイクルでニッケルを 分離し有効利用として、もう一度、H V電池原料として電池to電池とする 循環型事業を取り組んでいます。	最近のお客様のニーズとして、焼却 灰のリサイクルを望まれるお客様が 増えてきており、弊社としても焼却灰 の有効利用技術を求め、情報収集 をし取り組んでいきたいと思っていま す。	同業種の方々の取り組み、新たな発 見を期待しています。	人数都合によりお 断り

資料1. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧(大阪会場)

グループ名	ファシリテーター	区分	業種	業務	《資源の循環・有効利用に関して》 これまでに自社で排出事業者/処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください	《資源の循環・有効利用に関して》 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください	本イベントに期待することは何ですか	備考
A	アマタ環境戦略支援グループ 田部井	排出側	電力供給業	全社大の廃棄物関連対応・総括	特に無し	マニフェスト記載の適正化について	実務と法律が乖離している部分についての考え等を述べて欲しい	
			製造業	特別管理産業廃棄物管理責任者、環境業務に携わる本社の廃棄物管理担当者	社員食堂排出の動植物性残さの再資源化の検討	いわゆるゼロ・エミッションのワールドワイド(中国、インド、インドネシア、フィリピン、タイ、メキシコ)な概念の企業としての意思統一が重要テーマである。	高付加価値概念の再認識	
		処理側	産業廃棄物収集運搬業	おもに自動車製造業・部品製造業の直請として、鋳さい、汚泥、廃プラ、木くずなどあらゆる廃棄物の収集運搬ならびに処理相談窓口をしている他、金属の買取、家電リサイクル処理、フロン回収破壊法に準じた処理も行っています。また、製品を運ぶ一般貨物自動車	排出事業者様から、随時、廃棄物に関する相談があるため、業界での信用と人脈の広さなど横つながりを活用して、排出事業者様の代わりにその時々の処理会社の選定を承っています。理立からリサイクルへ換えた案件や、廃棄物を有価物として換えた案件、より、コストダウンにつながった案件などを取り組んでいます。	あまりに何でも捨てすぎる傾向があるため、廃棄物を有価物へ換えるルートをもっと確立したいです。希少な資源を国内で循環させたいとも思っています。	優良申請中なので、すでに取得された会社様のメリットなどがあってみたいですが、また排出事業者様にとって、「優良」は値段にまざるものなのかもうかがってみたいです。	
			産業廃棄物処理業	金属原料リサイクル 使用済み廃自動車破砕再資源化 産業廃棄物中間処理 産業廃棄物収集運搬(積替え保管含む) 特別管理産業廃棄物収集運搬(積替え保管含む) フロンガス回収業	特になし。	シュレッダーダストの再利用。	様々な企業様との連携・協働の機会となればと思う。	
			産業廃棄物処理業	愛知県・岐阜県・三重県・浜松市の収集運搬の許可を所有し、中間処分として圧縮・焼却・湿練等の施設があります。(積替え保管あり) ・特殊清掃車で分離槽・配管・ピット等の清掃業務 ・地元住民のリサイクル施設(新聞・ペットボトル・缶・段)	ただ単に買い取るリサイクル店ではなく、弊社が場所を提供し、不要なものが必要な人に安く提供できるシステムを勧めた。地元の日進市から取り組みを紹介されている。(広報に毎回掲載)今年で17年継続。現在は、新聞・ペットボトル・缶・段ボール等の集積場として活用し、他には、一般市民の処理困難物(市に処理委託しても拒否される廃棄物)の受け入れ先としても活躍しております。	産業廃棄物について「資源循環・リサイクル」等の言葉は耳触りがとてもよく、良いことだとは思いますが、基本は処理法に準じた「適正処理」が大基本であります。リサイクル等に縛られて、※「ムリサイクル」を排出事業者が処理業者に強要することもあります。(※リサイクルができないものを無理やりリサイクルとして進める・造語) 一般廃棄物について法的には市町村行政の処理責任において進めることとなっておりますが、市町村行政では処理出来ない廃棄物も排出されます。市町村民と行政、我々のような産業廃棄物処理業者との意見交換を進め、三者が協力して適正処理やリサイクルをしなければ解決できないと思います。	排出事業者の今の本音をお聞きしたいのと、処理業者の現状を知っていただきたい。	
			産業廃棄物処理業	資源営業部 部長	トヨタ自動車株が販売しているHVニッケル電池(車搭載)の資源循環事業 電池回収 ⇒ 加工 ⇒ 製錬 ⇒ 電池メーカー ⇒ トヨタ車HVニッケル電池 →ニッケルメッキ剥離事業 自動車部品(ニッケルメッキ部分 グリル等)をニッケルメッキとABS樹脂に選別する	→液状燃料の代替品開発 →粉体のリサイクル化(安全重視) →当社の柱となる新規事業	→情報収集 →ネットワーク構築(パートナー)	
B	アマタ環境戦略支援グループ 田中	排出側	鉄鋼業	鉄鋼二次製品、みがき棒鋼、冷間圧造用鋼線製造	年間約1600トン排出している、硫酸中和時に発生する石灰無機汚泥の再生化処理が、まもなく実現の運びとなっております。	金属粉、研磨粉等の高付加価値化を検討したいと考えております。	循環の高付加価値化の知識を深めたい。	
包装材料製造加工業			事業場として液体紙容器(酒・飲料などの紙パック)を製造担当として産廃管理、環境事務局・TPM事務局・原削事務局・設備導入	協働実施として 紙とフィルムを貼り合わせた加工紙のリサイクルを過去に行った	紙ベースでフィルムと貼り合わせた産廃が多く発生し、一部は再生をお願いしているが、固形燃料以外のマテリアルリサイクルを行いたい など	現在行き詰っている(マンネリ)処理方法以外のヒントを得ることに期待しています。		
化学			産業廃棄物担当として、産廃処理実務を担当している。	ゼロエミッションとして埋め立て処分量を削減した。	コスト低減など。	他業種の方の取り組みの参考		
処理側		産業廃棄物処理業	一般廃棄物収集運搬業(京都・滋賀) 産業廃棄物収集運搬業(近畿二府四県をメイン) 各リサイクル施設 RPF 木くずの燃料化 食品リサイクル ペットボトルのリサイクル など	紙ごみからトイレトーパー 京都市内の事業所より紙ごみを回収し衛生用品に資源循環。 それらを排出事業所にお返しし、社内のトイレに設置また啓蒙・啓発  店頭回収物をポイント化 小売店の前に専用計量機と回収BOXを設置し、新聞、雑誌、段ボールなどを回収。 それらの売却益を事業者専用ポイントに置き換える。  アルミ缶から車椅子 アルミ缶を回収し弊社製造施設にて飲料容器からアルミのペレットを製造。 それらの売却益により車椅子を購入し各施設に寄付  など、企業のCSRなどのお手伝いもしています。	BtoB コミュニティ回収の確立。  BtoC CSR CSVの創造  BtoG 処理困難物における高度リサイクル など。	排出事業者の知る現在の廃棄物事情と我々の業界における廃棄物事情をすり合わせるなどし、これからの排出事業者のニーズを得たい。		
		一般・産業廃棄物処理業	一般廃棄物・産業廃棄物処理・リサイクル	ダテヨウを利用した食品リサイクル	工場の海外移転や人口減少を見据え、他社との協働を含めた企業への提案。	他社事例を参考にしながら、どの様に協働を進めるべきかを検討したい。		



グループ名	ファンリテーター	区分	業種	業務	《資源の循環・有効利用に関して》 これまでに自社で排出事業者/処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください	《資源の循環・有効利用に関して》 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください	本イベントに期待することは何ですか	備考		
			産業廃棄物収集運搬処理	三友グループは、全国に廃棄物の積替え保管基地を6ヶ所、廃棄物処理施設を10ヶ所所有し、薬品等の特殊廃棄物を得意分野としております。その中で、消火薬剤であるPFOS、新たに有害指定となった1-4ジオキサン含有廃棄物なども、取扱いてお	・希少金属の再資源化・植林サービス等	適切な有効利用技術を持つ企業と連携により、自社技術を含む大きなネットワークの構築が今後のテーマと考えます。	排出事業者および同業者とコミュニケーションをとることにより、新たなビジネスチャンスを探れればと思います。			
C	アマタ環境戦略支援グループ鈴木	排出側	金属製品製造業	電子部品及び外装部品の表面処理の設計及び製造	1) 廃酸を処理業者で中和処理後の汚泥を当社で乾燥し有価物として売却 2) 自社排水処理後の汚泥を乾燥し、リサイクル業者で他社汚泥を混合させ銅品位を向上及びクロム含有量を低減させ海外に輸出 3) 下水道へ放流する水をUF膜とRO膜でろ過し有効利用(排水の再利用) 4) 廃プラを自社で10tプレスしてリサイクル業者が海外に輸出 5) 樹脂めっき品(廃プラ)を自社で破碎しリサイクル業者が海外に輸出 6) 排水処理工程で使用済み活性炭を再度、焼成し金回収活性炭で販売	<現在の課題意識> 資源(貴金属・非鉄・樹脂・紙・木・水等)を循環、有効利用して100%埋め立て しないゼロ・エミッションを達成する。低コスト・効率も同時に検討していく。 1) 廃液(廃アルカリ)を減圧蒸留(10倍濃縮)し廃棄物処理費の低減 2) 貴金属(金・Pd)の排水を処理(電解・イオン交換樹脂・活性炭等)し回収効率を見直す。 3) 堺地区の排水処理後の汚泥を自社で乾燥させ水分ペナルティを無くす。 4) 廃酸(高COD)を処理業者等と連携・協働して資源の有効利用を検討する。	1) 多種の処理業者様と検討することで資源の循環・有効利用する処理技術や 処理方法の情報をお聞きし連携・協働して資源の有効利用を実施する。 2) 排出事業者様とお話しから処理技術や処理方法の情報をお聞きし当社で改善するアイデアを探す。 3) 当社での資源の循環・有効利用方法を伝え、日本の資源循環を推進させる。			
			建設業、製造業	廃棄物管理、契約書確認など	自社製品から発生した廃棄物を再資源化に向け取り組んだ	再資源化しにくい廃棄物を再資源化しやすい環境にしたい 埋立の方が安価ではなく、コストもついてくる	少しでも、当社から発生する廃棄物を再資源化にできるヒントを得られればと考える			
			製造業(溶射)	品質管理、技術担当 ISO14001環境事務局、廃棄物担当	有機溶剤のリサイクル プラスチック(アルミナ)のリサイクル セラミックス溶射廃材のリサイクル WC、Coなどを含む溶射廃材のリサイクル	Ni、Crを含む溶射廃材の中には六価クロムの濃度が高いものもあり、現状は特別管理産業廃棄物として処理している。有効な分別、中和処理があればリサイクルを検討したい。	最新のリサイクル技術、廃棄物の有効利用の情報、アイデア			
			産業廃棄物処理業	産業廃棄物中間処理業、産業廃棄物収集運搬業	ゼネコンの現場にて、廃棄物の分別し処分するよう指導している。	分別精度の向上	弊社として取り組んでいけることの確認。			
		産業廃棄物処理業	?産業廃棄物処理業(焼却、埋立) ?環境調査・アセスメント、環境質分析測定 ?環境教育、普及啓発活動 ?県循環資源総合情報支援センター、県地球温暖化防止センター運営 ?県自然保護センター運営(指定管理受託)	行政と連携して台風被害により発生した災害廃棄物の処理を行った	処理困難な廃棄物を処理・リサイクルすることに関心を持っている	排出事業者、他の廃棄物処理・リサイクル事業者のニーズを知ること 全国の連携事例情報を収集すること				
		産業廃棄物処理業	主に産業廃棄物の収集運搬、中間処理。その他、コンサルタント業務、委託管理業務、など。	特になし。現在調整中案件あり。	排出された廃棄物から資源を回収し排出された排出事業者様に有効利用(購入)して頂くなど。 廃棄物業者が処理する際に資源を回収しやすい(リサイクルし易い)状態で排出管理してもらうなど。	排出事業者様に廃棄物業者をより知って頂き製造と廃棄の距離を縮めたい。				
		D	アマタ環境戦略支援グループ末次	排出側	電気機械器具製造業	気中遮断器、配線用遮断器、漏電遮断器の製造	再利用可能な木パレットは、出入業者に引取って貰い、次回納品時に使用して貰っています。また銅材の梱包パレットは、開梱後納入業者に引取って貰ってします。	弊社から排出する廃プラスチックについて、リサイクルベースではとても採算が合わないで、現状では、産業廃棄物として最終処分場で埋立しております。安価でリサイクル出来る方法はないかと悩んでいます。	少しでも産業廃棄物を削減し再生出来る方法はないか。その答えを得たいです。	
					自動車部品製造業	自動車部品の製造ならびに販売	特になし	廃棄物の処理をLCA的に評価し、環境負荷(CO2排出等)の少ない処理方法を選ぶための仕組みを作る、など	次期ビジョンにむけ廃棄物・排出物テーマについての情報収集	
					ハウジング関連製造業	環境企画関連業務	廃PPバンド、ストレッチフィルムの有価引取り〜リサイクル	木屑の有価引取り〜リサイクル	業界情報収集と人脈づくり	
				産業廃棄物処理業	・産業廃棄物処理業 ・金属スクラップ加工 ・解体工事 ・エネルギー事業	・液晶ガラスの再資源化 ・廃タイヤの原料化 ・建設業者との現場養生材削減のためのリユース化 ・クッキーの飼料化	・ガラスのリサイクル率の向上(さらなる再資源化) ・埋立処分の削減 (例)石綿含有廃棄物の埋立以外の処理先確保(処理方法:溶融) ・小型家電などの海外輸出による資源の海外への流出防止(国内処理) ・ペットボトルのリサイクル	排出事業者と処理業者とが両方の立場、視点でディスカッションすることで、共同で新たに取り組めることを見つけられたらと思います。		
産業廃棄物処分業	産業廃棄物処理生成原料での固形燃料(RPF)の製造 一般廃棄物処理(行政指定)、下水処理関連事業			地域密着で60年の実績あり、地元の開業との連携により安全、安心の処理推進。 コンプライアンスの重視、コストダウン、環境負荷低減を提唱。	「企業間ネットワーク」と「地域の枠を超えた処理体制の徹底」、提案	排出者、処理業所双方の価値観の調整、共通の問題解決への糸口発見。				
廃棄物処理業・製造業(木材)	廃木材よりパーティクルボードの製造をメインとしております。			竹中工務店等大手ゼネコンと廃木材の回収受入とそのリサイクル品現場配送の取り組みを行い、廃木材のゼロエミッション等を行った	木材以外のリサイクルと現リサイクル品の有効利用	様々な考え方を吸収したいと思えます。 色々な角度から物事を見る用になり、色々な資源循環を考えたいです。				

グループ名	ファシリテーター	区分	業種	業務	《資源の循環・有効利用に関して》 これまでに自社で排出事業者／処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください	《資源の循環・有効利用に関して》 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください	本イベントに期待することは何ですか	備考
			産業廃棄物収集運搬業	当社と200社の協力会社で構成する「KOYOエコネットワーク」を活用して、あらゆる廃棄物及び環境に関する工事などワンストップサービスをご提供させていただいております。お客様の廃棄物に対する目的や問題点を共有させていただき、発生工程から確	某日用消費財メーカー様と連携。当社のワンストップサービスをご提供。廃棄物の発生源から確認・調査を行い、分別を中心に廃棄物の有効利用を促進しました。結果、廃棄物量は10%削減・廃棄物処理費用も10%削減に貢献。また、国内関連工場ですべてゼロエミッションを達成することが出来ました。ご担当者様と「どうすれば廃棄物を削減できるか」「どうすれば分別が容易にできるか」など共に思案し実行へ移すことが出来た結果だと考えます。	限られた資源、廃棄物を有効に利用するためのご提案を求めています。廃棄物の有価物化による有効利用に関しても、排出事業者からの見える化を追求していき、安心安全の処理を行っていききたいと思います。	排出事業者、処理業者から様々な意見や情報をいただき、私共の営業ツールになることと考えております。	
E	アマタ環境戦略支援グループ小峯	排出側	鉄鋼業	製鋼工程をはじめとする社内から発生する副産物のリサイクル活動を実施する。副産物の高付加価値化や、技術的な知見からのアプローチの実施している。	製鋼から排出されるスラグの土木用としてのリサイクルの実施。圧延から排出されるスケールの鉄源としてのリサイクルの実施。など	土木用途以外の高付加価値化を視野に入れたリサイクル。社内外の副産物の高付加価値化。	既存のリサイクル方法以外の用途開発の足がかりとなることを期待している。	
			化学工業	半導体及び液晶用感光性材料 オフセット印刷用感光性材料 写真感光材料 機能性色素 高感度UV感光剤 医薬中間体 高分子添加剤 その他化粧品などの製造販売	古紙回収業者と連携し、事業所の古紙回収を行った結果、事業所から排出される一般ゴミが年間10トン以上減少しました。	産業廃棄物として処理されているものを、分別回収していきたい。	産業廃棄物を分別回収を適切にやっていた業者との連携	
		処理側	産業廃棄物処理業	1. 産業廃棄物の中間処理 2. 焼却 2) 破砕 3) 混練 2. 特別管理産業廃棄物の中間処理 1) 焼却 特定有害産業廃棄物(ダイオキシン類・水銀・鉛・カドミウム・6価クロムなど重金属化合物を含む燃殻・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・鉛さい)	・微量PCB汚染物(筐体)焼却後のスクラップは、解体選別し、スクラップとして販売するが、破片は排出事業者の関連会社でリサイクルしている。 ・廃触媒を当社で再生し、排出事業者が有価で販売している。再生技術は排出事業者が提供し、当社は設備投資を行なった。 ・廃棄物が入ったオーブドラム缶のうち程度のよいものは、当社内で高圧洗浄して排出事業者などに廉価で販売している。 ・混練事業者からセメントのスペックに合わない汚泥等が入荷し焼却するが焼却灰は再び混練事業者で混合調整してセメント向けとなっている。	燃料高騰や環境に対する規制強化により焼却事業の収益を圧迫している。今後は同業者とも連携して焼却すべきものとセメント原料となるものなどをこれまで以上に分別すること、廃棄物となっているものを個別にリサイクルしていくことなどに取り組みたい。今後は再生エネルギーや自然エネルギーの利用、フロン法の改正にあたり破壊しているフロンを再生する事業も検討してみたい。	ニーズとシーズのマッチング。これまでの枠にとらわれず、我々のできることを模索していきたい。	
			産業廃棄物処理業	産業廃棄物収集運搬(13府県)、産業廃棄物中間処理(堆肥化)	気仙沼でのゴーヤ緑のカーテン運動、近隣の農家での有機栽培実績	産業廃棄物の有効利用を通じてメーカーになること	グローバルな循環社会の取り組みの中で、我社ができる最も適した取り組みとは何かを見出したい。	
			産業廃棄物処理業	プラスチックに特化した再生。回収・粉砕・溶融・販売	廃バッテリーリサイクルスキームの構築 三井金属鉱業様と共同出資でバッテリーのリサイクルスキームを構築し、現在も行っている。	国内の廃棄物が海外に流れて国内での処理量が少なくなった。経済活動の中で仕入単価の高いところに販売するのは仕方ないが、廃棄物とみなされる物を海外への放出はいいかがか、掲載情報の変化で商流がストップすると国内が“ごみの山化”にならないか心配。行政で国内での処理に配慮が欲しい。		
		F	産業廃棄物処理事業振興財団 改田部長	排出側	化学工業	金属表面処理剤、産業用洗浄剤及び助剤の開発、製造、販売、プラスチック部品の表面処理受託加工、機能薄膜イオンプレーティングの受託加工、ニューセラミックパインダーの開発、製造、販売を行っている。	銅、ニッケル汚泥の売却	再資源化の推進
医薬品製造、販売	EMS事務局				特にありません。	・廃棄物の発生量削減	廃棄物の発生量を削減させるためのアイデア、各従業員の意識を上げ持続する方法などをお聞かせ頂いたら幸いです。	
鉄鋼業	環境CSRにかかわる業務				特になし	当社廃棄物のリサイクル推進	リサイクルに関する情報収集	
処理側	産業廃棄物処理業			産業廃棄物の収集運搬、中間処理、最終処分及び一般廃棄物の収集運搬	顧客のあらゆるニーズに対応するため、自社では処理(リサイクル)できない廃棄物もネットワークを利用し、対応している。	廃棄物処理業界の将来展望 新規事業 海外展開(現状の課題と将来見通し)	排出事業者のニーズ、処理業者のさまざまな取組みを通して、自社の新規事業の参考にしたい。	